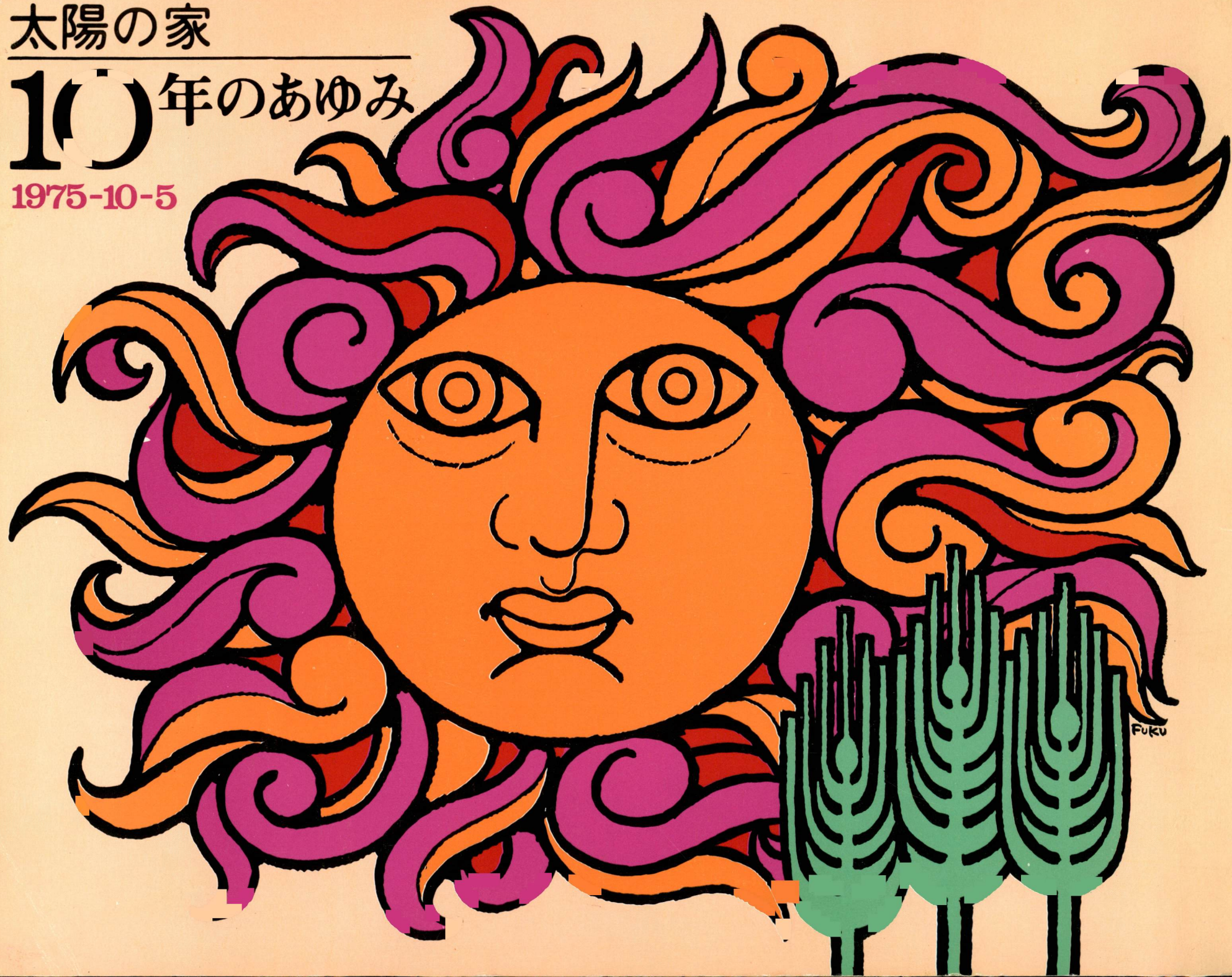


太陽の家

10年のあゆみ

1975-10-5











太陽の家

10年のあゆみ





麦は踏まれても

踏まれても

ぐんぐん成長します

太陽に向って

のびつづける

麦の形には

団結を—

意味するものが

あります

世に身心障害者(児)はあっても

仕事に障害者はいりえない

太陽の家に働くものは

被護者ではなく

労働者であり

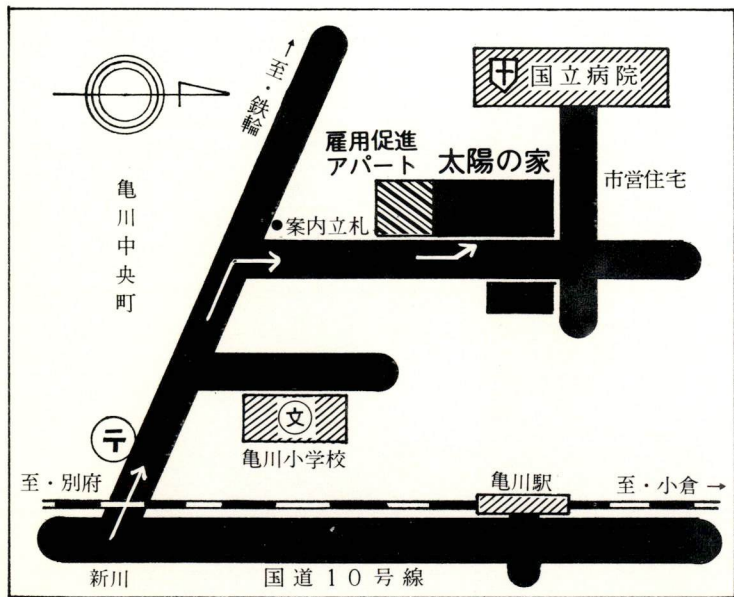
後援者は投資者である



	太陽の家 全景	1
	歴代理事長	2
	役員及職員	4
	序文・祝辞	13
	努力の思い出たち	15
	保護より労働を	19
	建設のあゆみ	22
	労働と蓄積の歴史	24
	福祉工場・オムロン太陽電機	28
	スポーツと機能開発	30
	建設資金について	33
	いま、人間回復へ	35
	進展する現況	33
	管理部門	35
	職場	41
	機能開発センター	46
	研修センター	47
	諸設備	49
	皇室の御関心	51
	太陽の家 あゆみ抜粋	



太陽の家所在図

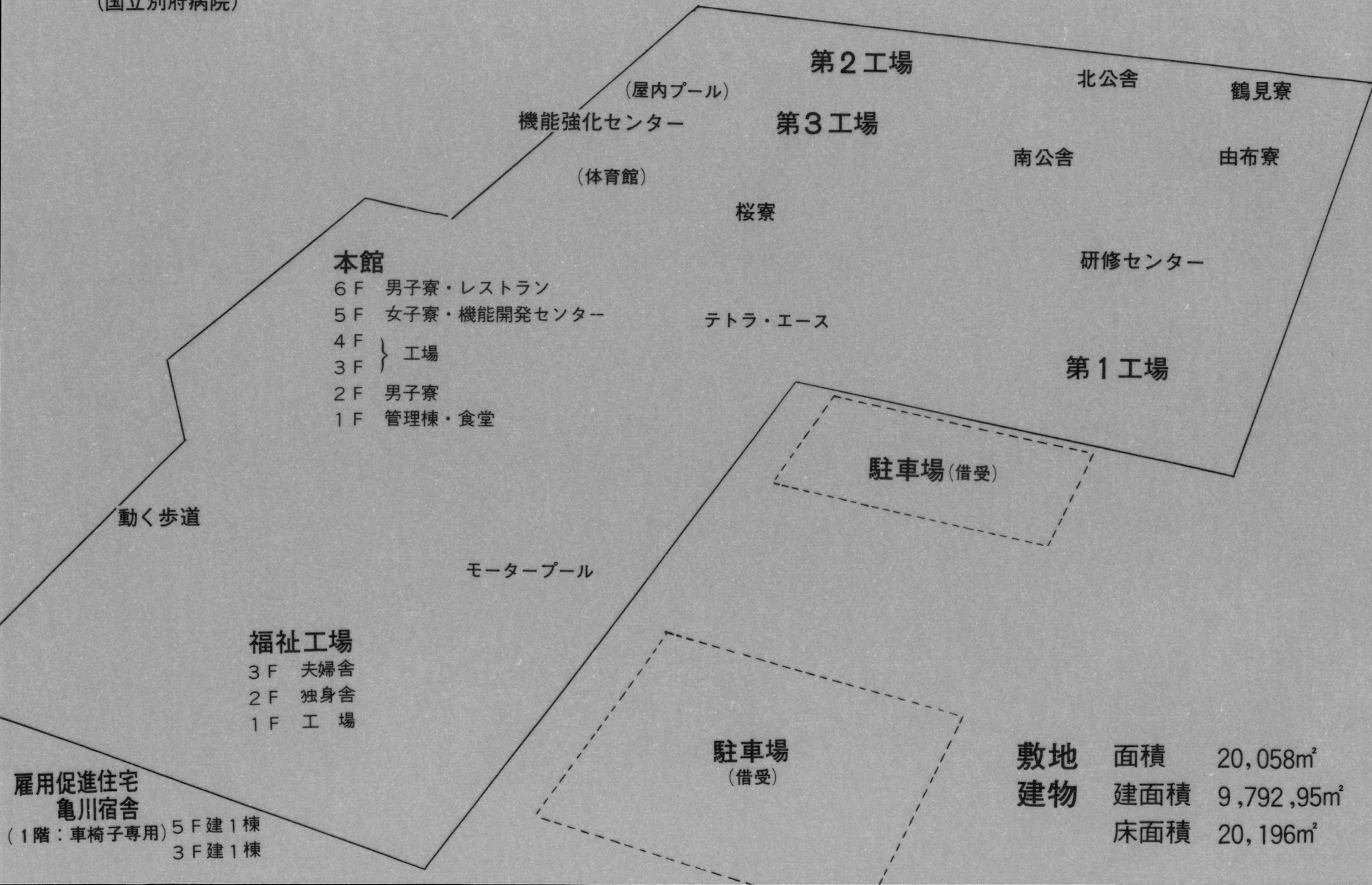




(市営住宅)

# 太陽の家全景

(国立別府病院)



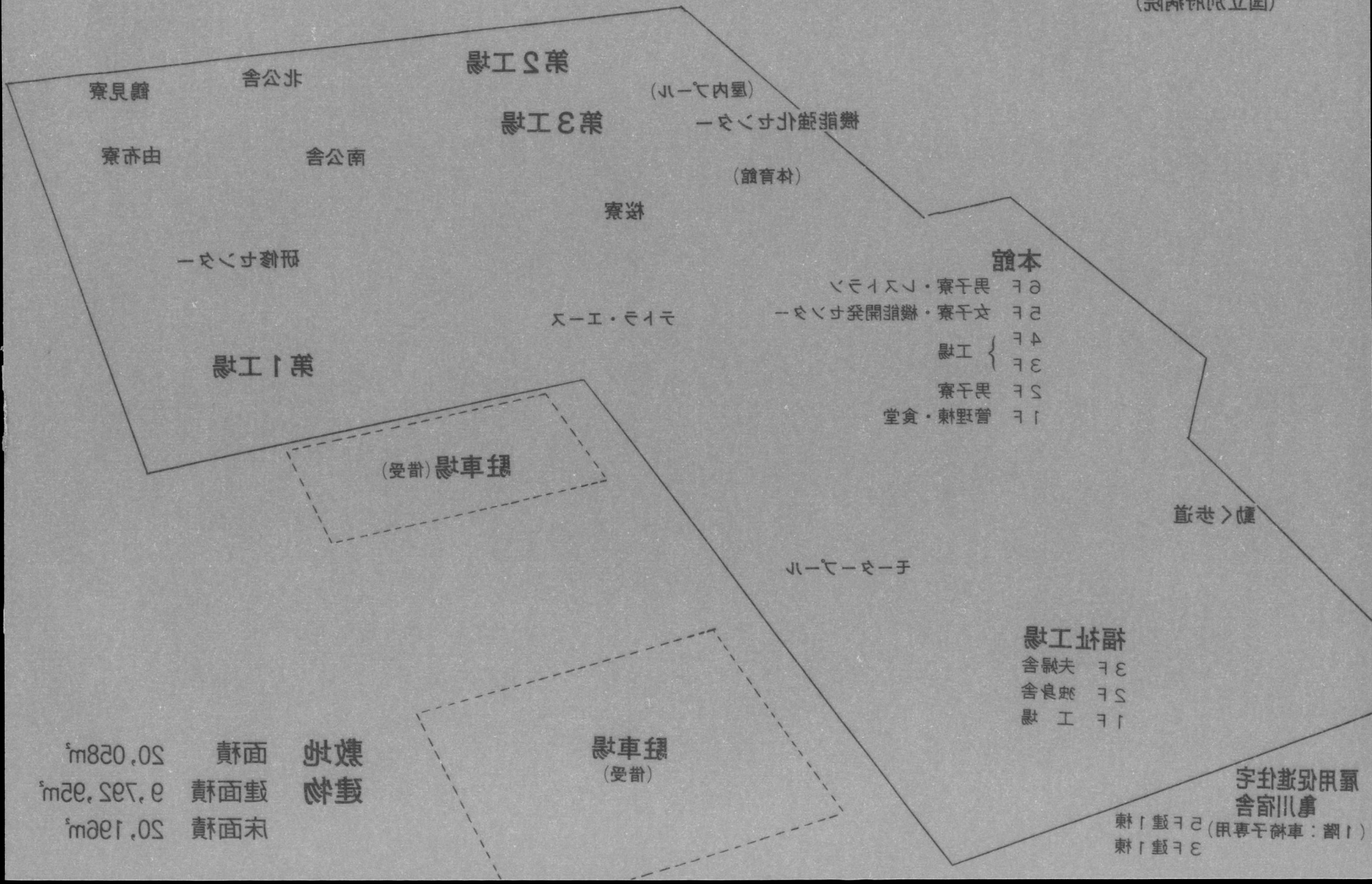
敷地	面積	20,058m <sup>2</sup>
建物	建面積	9,792,95m <sup>2</sup>
	床面積	20,196m <sup>2</sup>



(宇 卦 營 市)

# 景 全 家 の 圖 太

(製 糖 有 限 公 司)



寮見鏡

舎公北

工場 2 棟

(ハート内風)

寮市由

舎公南

工場 3 棟

一々くサハ製糖機

(館育村)

寮遊

一々くサ製糖機

館本

くマイスノ・寮千民 ㊦㊦

一々くサ製糖機・寮千文 ㊦㊦

工場 { ㊦㊦

寮千民 ㊦㊦

寮千民 ㊦㊦

堂食・寮野管 ㊦㊦

スーエ・マイテ

工場 1 棟

(受替) 車庫

直巷ノ棟

ハート一々一子

工場 4 棟

舎駄夫 ㊦㊦

舎良助 ㊦㊦

工場 ㊦㊦

50,028m

蘇面

出煉

50,295.92m

蘇面敷

出煉

50,199m

蘇面末

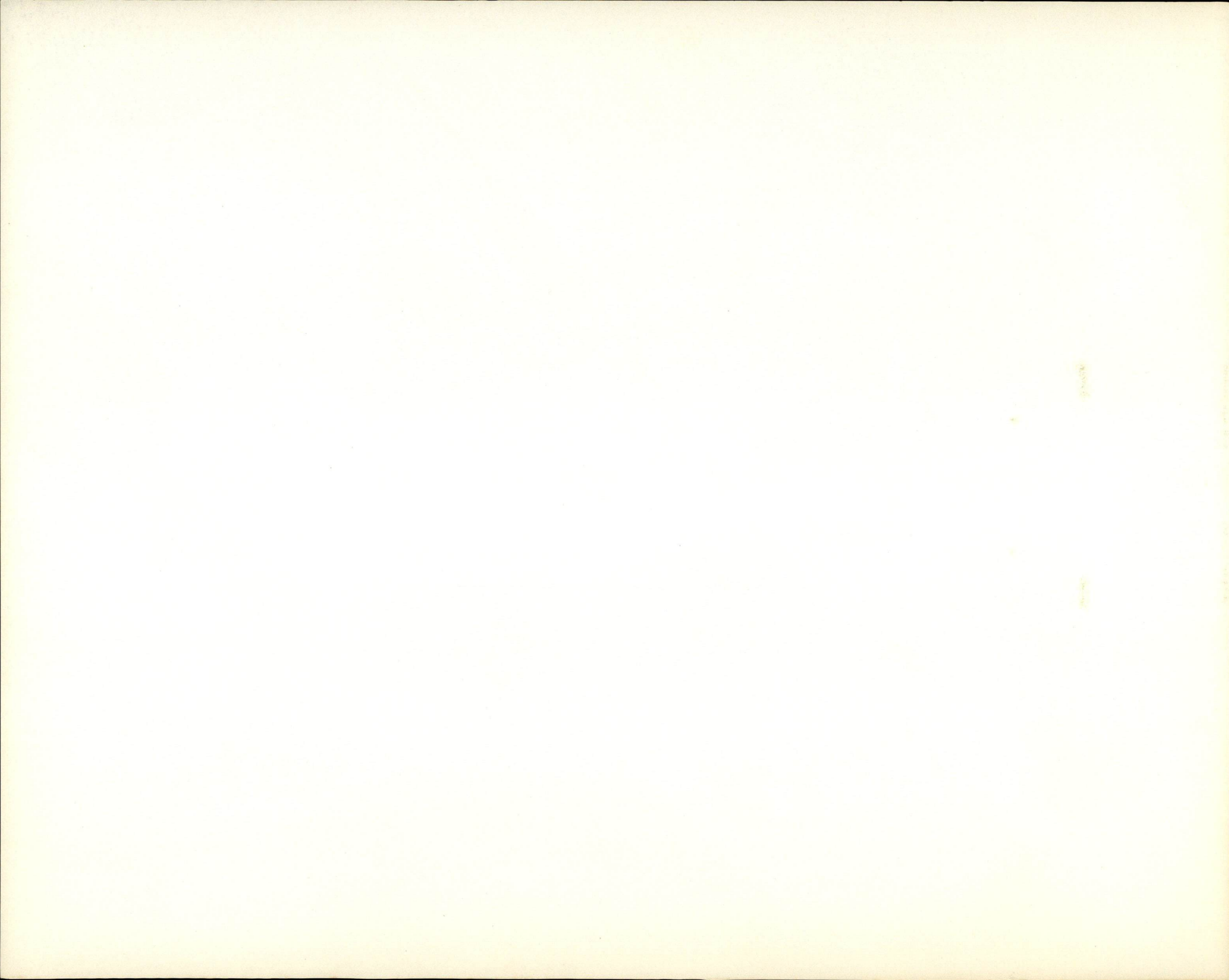
車庫

(受替)

宇卦製糖有限  
舎市川

寮 1 軒 ㊦㊦ (用専千車：調 1)  
寮 1 軒 ㊦㊦









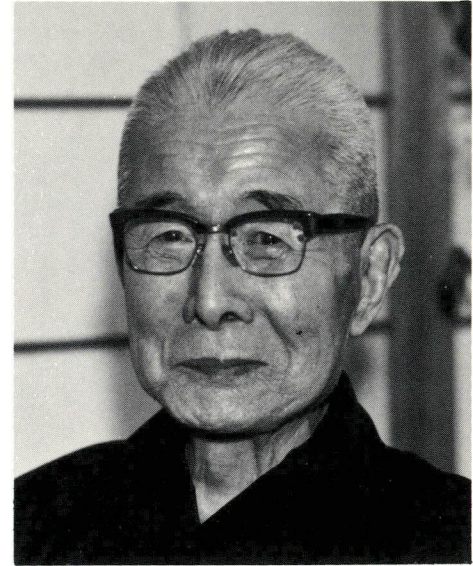




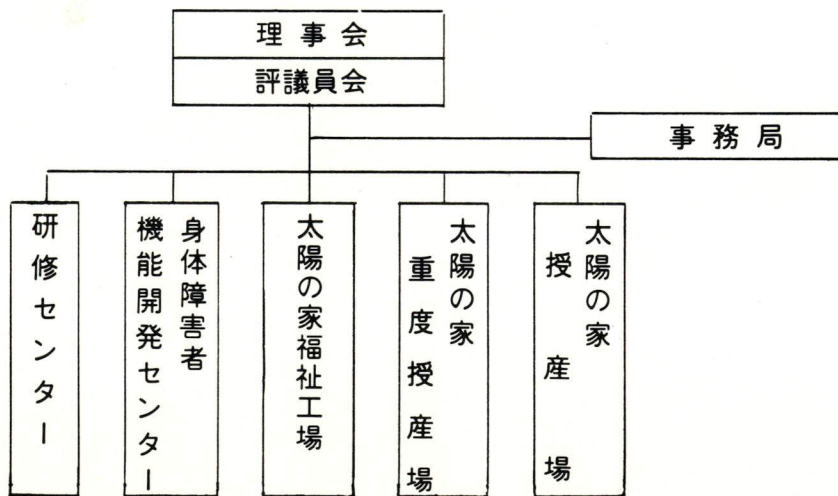
理事長  
医学博士 中村 裕



会長  
ソニー(株)会長 井 深 大



初代理事長  
医学博士 故・高 安 慎 一



●太陽の家組織図

従来税金の消費者であった身体障害者を税金の納税者とする、それが太陽の家本来の主旨であります。  
身障者自身も残された機能を十分に発揮出来得る場所と機会を求めているのです。単なる同情と保護だけでは何時までもたつても独立は出来ません。  
太陽の家はひどい身障者でも科学をフルに利用して自力で暮し作業できる様な環境づくりに研究努力しています。  
積極的に社会生活に参加させ、自ら生きる意志を育てることこそ最も大切なことだと思えます。



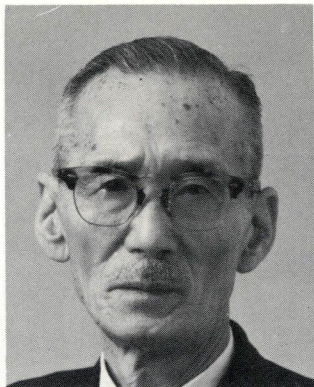
— 現役員 —

— 理 事 —



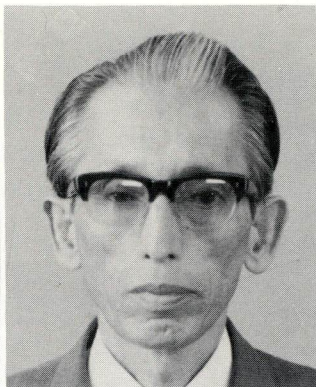
大分マツダ販売(株)相談役  
松本平逸

— 理 事 —



宮崎マツダ販売(株)社長  
日高市蔵

— 理 事 —



大分大学工学部長  
鍋島敏

— 理 事 —



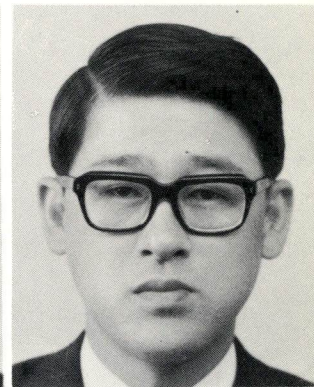
(株)南風荘社長  
菊池次郎

— 理 事 —



別府商工会議所会頭  
河村友吉

— 常務理事 —



医学博士  
畑田和男

— 監 事 —



大分県経営者協会専務理事  
佐藤迪男

— 監 事 —



児玉会計事務所所長  
児玉宗忠

— 理 事 —



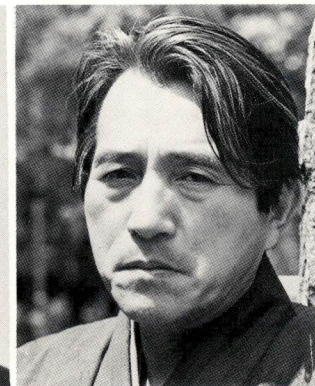
国立別府病院院長  
山本清人

— 理 事 —



二平合板(株)社長  
村上博之

— 理 事 —



作家  
水上勉

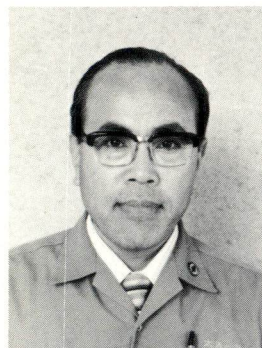
— 理 事 —



前事務局長  
水迫幸平



— 現職員 —



事業部長  
渡辺明士



機能開発センター室長  
野尻義孝



全職員



事務局長  
宮野茂博



総務部長  
飯川勉



相談室長  
木元忠清



厚生課長  
柳瀬忠男



福祉工場業務課長  
畑辺健彦



事業課長  
伊方博義



管理課長  
石原武士



経理課長  
林安由



企画広報室長  
吉永栄治



# 創立十周年記念日を迎えて

会 長 井 深 大

社会福祉法人「太陽の家」が今般隆盛のうちに創立十周年を迎えることは誠に御同慶にたえぬところでございます。

今茲に過去十年間の苦難のあゆみを反省し、今日の「太陽の家」の伸展の状況とを思ひ比べるとき感慨無量なるものがあります。創立当時の社会福祉の一般理念は保護乃至は慈善偏重の域を脱していなかったことは事実ですが、「太陽の家」がこの理念を啓蒙して生産と結びつけ、夫々の身障者に希望と自信を持たせ、将来の社会福祉特に身障者福祉問題の在り方を示唆した功績は見逃すことはできないものと信じます。「太陽の家」の今日を作り上げたものは中村理事長の卓抜な発想とたゆまぬ推進力と実行力に在ることは勿論ですが、これを補助してきた職員並びに入所者諸君の努力の結晶とも云うべく茲に改めてその労を多とし敬意と謝意を表します。又一面その発想と努力を推進していただいたものは一般社会の方々の身障者福祉に対する御認識、政府その他関係機関並びに協力企業の方々の深い御理解に基く御協力御支援によるものと深く感謝の意を表する次第でございます。

過般のフェスピック大会（極東南太平洋身体障害者スポーツ大会）にも見られたとおり、今や「太陽の家」は九州の一隅別府だけのものではなく、「全日本の太陽の家」、「世界の太陽の家」としての躍進を期待されると同時に日本および世界の身障者福祉の先駆者としての役割を果たさねばならぬ重大な使命を背負はされたものと考えねばなりません。

輝かしい十周年を祝福しこの機会に関係当事者各位並びに従業員諸氏の自覚精進を望むと共に、一般社会特に関係諸機関その他の方々の従来に変らぬ御理解と御支援を御願ひ申し上げて御挨拶の辞といたします。

## 創立十周年を迎えて

理事長 中 村 裕

重度の身体障害者に対し「保護より機会を」をモットーに発足した身障者の働く工場「太陽の家」も満十年目の創立記念日を迎えることになりました。当時を思い浮か



べ、この十年のあゆみを辿ってみますと感慨深いものがあります。

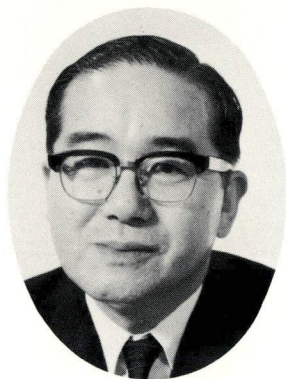
昭和四十年十月五日、十五人の車椅子の同志を建築会社から借りた中古のプレハブで、足を棒にしてやっと探した竹細工の仕事に狂喜した「太陽の家」も、今や十一業種で働く総勢四百人の大所帯となり別府最大の工場に発展しました。従来税金の消費者であった身障者を納税者の立場にもってゆく、単なる同情や保護の代りにサイエンスをフルに利用し残存能力を最大限に発揮し、自力で生活し、収入の増大をはかると云うことが終始変らぬ太陽の家の信条でありました。この信条を達成するために職員や身障従業員はその意を体して、あらゆる困難をのりこえてがむしゃらに突進して、その目標にむかって努力してくれました。ある時は悲しみ、又共に抱き合って喜んだ茨の十年間でした。又一般社会の皆さんや特に関係筋の諸機関の方々並びに協力企業の方々共に「太陽の家」の在り方について深い御理解と暖い御支援、御協力を寄せて下さった結果として今日の「太陽の家」まで漕ぎつけ得たものであります。

茲に改めて深甚の謝意を表します。本当にありがとうございました。従来、施設に単に保護収容することを中心とした我が国の身障者対策にあきたらず、私共は機能開発センターを設置し、科学的探究による授産事業の能率化や企業の運営や福祉モデル都市の推進、身障者スポーツの振興など他にさきがけて絶えず前進して参りました。この機会に過去十年間のあゆみを記録に止め、反省の資とすると共に将来への飛躍の踏み台とすることは、有意義なことと考へ十周年記念誌の編さんを企画いたしました。

また「太陽の家」の十周年記念行事の一環として行われた先般のフェスピック（第一回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会）の結果からみましても「太陽の家」はひとり日本国内のみならず少くともアジア諸国の身障者問題についても、先駆者的役割を新に負荷されたことをひしひしと感じます。職員・従業員諸君は創立十周年にあたり

「太陽の家」がおかれている重要な立場を十分に理解し、覚悟を新にして身障者福祉の促進に努力を重ねて下さい。私共はこの十年間の運動を通じて、身障者の幸せは単なる同情や無料給付などではなく、健康者と同じ権利が認められ、一般社会の中で堂々と生活出来ること以外にないことを知りました。道は遠く険しいと思います。どうか今後共ももっともっと素晴らしい太陽の家を作り上げるべく初心にかえて頑張りましょう。また一般社会の皆さんも真の身障者福祉のあり方について更に深い御理解を賜り、太陽の家の将来が明るくなりますよう暖い御協力・御支援を心からお願ひ申し上げます。





厚生大臣

田中正己

## 「社会福祉法人太陽の家創立十周年によせて」

社会福祉法人太陽の家は、身体障害者で一般企業に雇用されることの困難な方々を収容し、職業を与え自らの収入により独立した生活を送れることを目的とした身体障害者授産施設として発足以来、身体障害者の方々の更生のため多大な貢献をされ、ここに十周年を迎えるに至ったことは、誠に御同慶にたえません。

この間重度障害者授産施設、身体障害者福祉工場をも手がけられ、保護より機会をモットーに科学の力を駆使して、身体障害者が残存機能を發揮し、近代産業労働者の一員として、積極的に社会生活を送れるよう育成する一方、民間企業とのユニークな提携方式をとり入れ、福祉工場のモデル的役割を果たすなど、民間授産事業の経営や身体障害者の社会復帰のあり方に新しい分野を開拓されました。また、その独特な発想と行動力はたんに授産事業の近代化に止まらず、機能強化センター、機能開発センター、研修センターの設置となって表われ、リハビリテーションの諸分野における開発を促進し、斯界のパイオニアとして飛躍的な発展を遂げ、世界的にもその名を知られているところであり、その成果に対し衷心より敬意を表するものであります。

これもひとえに中村理事長をはじめ関係者の皆様の熱意とたゆみないご努力が、幾多の困難を乗り越え、今日の姿に成長させたものであり、心からお祝い申しあげます。最近の社会経済情勢はまことに厳しいものがあり、施設の運営も容易ならぬものがあるかと推察されますが、今後とも我が国の身体障害者施設の先駆的役割を果され、障害というハンディキャップを背負われた方々の福祉の向上のため、益々発展されますことを祈念してお祝いの言葉といたします。





大分県知事

立木 勝

## 太陽の家創設十周年を祝して

昭和四十年十月、「身体障害者に働く機会を」をモットーにして、「太陽の家」が創設されて以来、早くも十周年を迎えられましたことは、誠にご同慶にたえない次第であります。昭和四十年当時県下における身体障害者のための更生援護施設は、県下の身体障害者更生指導所と収容授産場の二カ所のみでありました。

自宅に引込みがちな身体障害者も所得倍増政策に引続く高度成長政策の波にのって、社会復帰をする機運も高まり、身障者自身もその意欲を燃やしはじめ、一般の関心も徐々に強まり、政府も身体障害者に対する施策の充実を推進するようになってきたとき、身体障害者の残存機能を最大限に発揮できるよう配慮した近代的な「太陽の家」の身体障害者授産施設が完成されたわけで、身体障害者福祉の活気ある更生援護施設として、各方面から、期待されたものでありました。

その期待を裏切らず、昭和四十六年には第二の施設として重度身体障害者授産施設を開設、更に昭和四十七年には、第三の施設として企業とタイアップして近代的な福祉工場を開設するとともに、付属施設として、研修センターや機能強化を行う体育館プール等が建設され身障者の働く殿堂として整備されました。

このように完備された「太陽の家」は、大分県の「太陽の家」のみにとどまることなく日本の「太陽の家」として、また世界各国にもその名を知られていますことはご案内のとおりで、地元県といたしまして、自慢の一つとして誇りにしている次第であります。

これは、中村理事長を初めとする関係各位の日常たゆまないご努力の賜ものと深く敬意を表するものであります。

終わりに、今後とも「太陽の家」が、身体障害者のモデル更生援護施設としてますます充実発展されますよう祈念申し上げます、創設十周年の祝辞といたします。





別府市長

脇屋長可

## 「太陽の家」開設十周年を迎えて

昭和四十年、亀川の一隅に生れた「太陽の家」は、当時既に画期的な施設として注目されたものでございましたが、揺れ動く政治経済の中、その運営は決して安易なものではなく、十年の歳月は試練の星霜でもありましたが、関係者一同よく苦難を克服して期待にこたえ、もはや別府の中の「太陽の家」ではなく、世界の「太陽の家」として、その名声を国際社会に広めながら十周年記念を迎えましたこと、心から敬意を表するものでございます。

六月二日、フェスピックバスケット会場として皇太子ご夫妻のご来臨を仰ぎ、そしてまた、翌三日には参加各国選手役員の涙にくれて別れを惜しんだ閉会式など、「太陽の家」で演じられた幾多の感激は、まさに苦節十年の感激であり、この十周年記念誌に特筆される「太陽の家」の輝やかなしい歴史の一頁でもありましょう。

行政の分野に属する福祉事業が、あまねく及ばないところに身障者社会復帰の遅れがみられ、常に政治の争点となって論じられつゝありましたとき、中村理事長先見の明は、身障者に対する愛情と理解となってあらわれ、「太陽の家」設立を実現されました。そして自らの医業を省みることなく身障者の福祉増進に精魂を傾け、その残存機能の開発につとめて社会復帰を助けられ、次々と新しい企画によって授産事業をとり入れ、幾たびか社会経済の浮沈に遭遇しながら「太陽の家」一体となってその哀歓をわかち、ひたすら社会復帰の光りを求めて精進されましたことは、私も多く市民の知るところでございます。

全国で初めて通産省から配分された電動式車イス工作機械による「福祉機械モデル工場第一号」として指定されましたことも、「太陽の家」自らが開発された偉大な成果でありましょう。

苦難の道十年の歳月で得られた尊い体験と成果を基調として、広く世界身障者の福祉増進に、更には将来に及ぶ後進身障者の師表となって、明るい福祉社会の実現に寄与いただくことを祈念しまして十周年記念のごあいさつといたします。





太陽の家理事  
作 家

水上 勉

## お祝のことば

太陽の家創立十周年を迎えて心からお喜び申し上げます。正直いって、十年前のことを思うと、歳月の早かったことと、その歳月のあいだを、まったく自分を捨てて、建設にたずさわられた中村裕博士のご苦労が胸をゆさぶります。十年前の今日は、おぼえておられる方もありませんが、小雨が降っていました。いまは社員食堂と鯉のいる池になったあたりは、出発当初の事務所でしたが、その外の野っ原に、テントがはられ、別府整肢園の子らの楽隊が、ハモニカや太鼓をたたいて、中村博士や私たちが志の鍬入れ式ならびに「太陽の家」出発の賀を祝ってくれました。雨の降るなかには当時は事業の花形であった竹細工でお絞り置きをつくる何名かの社員が列席していました。誰ももの眼に涙がやどっていたことをあざやかに思い出します。じつは、あの出発の日に、私は、十年後の今日のような世界に誇れる身障者労働工場の誕生を夢みておりませんでした。ただ「太陽の家」は日本ではじめての身障者自立工場ゆえに、たとえ百年かかって、理想の火は消してはならぬと、小雨の中で心に誓ったものでした。ところが、なんと、十年で、今日のような大発展をみたのです。この感慨は、おそらく、中心にいて働かれた中村博士の胸中にもあることと思いますが、私たち、博士の介添役として、多少の力を出しあつた皆にとつても、まことに夢の実現としか云いようがありません。ここまでは、いろいろなことがあり、いろいろな苦しみがありました。挫折せずに一路発展への道を進み得たのは、先ず「太陽の家」に入社された身障者社員の克苦の行績によるものであり、それに感動して力をあわせ、募金運動や資金調達に走りまわられた理事の諸氏、それに理解を示して協力して下さつた無数の人々のおかげというしかありません。十年前、大阪の駅構内を歩いていたら、私をよびとめた七十歳ぐらいのお婆さんがいて、「これをどうぞ太陽の家にあげて下さい」と古い巾着から五百円札をとりだして私の手に握らせて下さいました。お婆さんは名もいわず雑踏へ消えましたが、「太陽の家」はつまり、そうした名のない人



々の熱い支援があつて、国をうごかしたともいえましょう。いまとなつては、五百円の寄附金はほんのわずかなものですけれど、昔の建物からみると、立派すぎるほどの巨大な高層建築になった今日の「太陽の家」もじつはその礎は名もない人々の寄謝によつたものであることを、私はいま噛みしめています。大阪のお婆さんばかりでなく、日本国じゅうの旅の途上で、私のポケットへいくらかの紙幣をねじ入れて下さった女学生、中学生、工員、農婦の方々の名もいわずに去つた人々があります。その人々の心にいま合掌したい思ひです。

中村博士の大苦闘とともに、十年の歳月は早く来てしまいました。さて、これらの事業は、大きくなつただけに、またいろいろな試煉に遇うことは当然でしょう。またまた辛い時がくるかもしれません。そんな時は、私は理事の一人として、十年前に、「がんばって下さいよ。成功させて下さいよ。」と云つて、五百円紙幣をにぎらせてくれたあの大阪のお婆さんの顔を思いだすことにしようと思ひます。

つまらぬことを書きましたが、創立十周年の悦びを申しあげる先に、こんな思ひが胸をいっぱいにしてしまいました。あしからずおゆるし下さい。最後に「太陽の家」社員の皆さまの健康と日々のお仕事のつづがないことを、東京在住理事の一人として祈ります。皆さん、十周年お目出とう。



太陽の家評議員  
評論家

秋山 ちえ子

## これからの十年に期待を

「太陽の家」の十周年記念日に当り、中村裕理事長はじめ、三百数十人の働く身体障害者の方々、事務の方々の方々の今日までの御努力に対して心から感謝の大拍手を捧げます。いまや世界中の身体障害者関係の人々の間で「太陽の家」と「ドクター中村」の名は有名になっています。昭和五十年六月に開催された「FESPIC・GAMES」でも、東南アジア、南太平洋各国の人々に「太陽の家」のあり方は多大な感銘を与えました。



十年前のことを知っている私にとって、今日の「太陽の家」は言葉に云い尽せぬ感無量なものです。十年前に今日の「太陽の家」を予想出来なかった私の不明を恥入ると同時に、大方の思いを上まわる大成果をあげた「太陽の家」のスタッフの前に「負けました」と頭を下げながら何ともいえぬ喜びを感じています。本当に見事な成長ぶりです。

「天は二物を与えず」という言葉があります。が、理事長の中村裕先生にはこれがあるではありません。医師としての見事な手腕。経営者としての非凡な才能。いつも明るい雰囲気を作り出す人物。御両親、奥様はじめ、家族の限らない支援。中村先生なしには「太陽の家」の今日は無かったと思います。

「日本に『中村裕氏』が十人いたら、日本の身体障害者問題はもっと片づいており成果をあげているだろう」とは、中村先生を知る人々の異口同音の言葉です。

今、私の思うことの第一は、何はともあれ中村先生が長生きをなさることです。幸なことに先生はお酒も煙草もたしなまれません。好物の「おまんじゅう」の食べ過ぎにくれぐれも気をつけて……と、申しあげましょう。

この十年間の思い出は山のようにあります。

しかし前のことはふり返らずに、今後の十年のことを考えましょう。これが「中村裕式」「太陽の家方式」と申すものでしょう。

これからの十年間。私は「太陽の家」に働く人の老後のことも含めて、大分県いや日本の高齢者の人がにこにこ生活出来る町作りをしていただきたいと思っています。

大分県は「太陽の家」で、身体障害者の生きがいある暮しづりをみせてくれたのですから、その続きの倅せな老後の生活ぶりを世界の人々に示すことも可能だと信じています。

私も出来る限りお手伝いしたいと思っております。

今後のますますの御努力と御繁栄を心からお祈り致します。





Greetings to the Tenth Anniversary of Japan Sun Industries

It is with the greatest of pleasure that I send my warmest congratulations to the Tenth Anniversary of Japan Sun Industries. This Organisation has developed from small beginnings to a very important industrial movement for paralysed and other severely disabled under the splendid leadership of my friend and pupil Dr. Yutaka Nakamura. During the First FESPIC Games, I had the opportunity to visit one of these factories and I was extremely impressed by the whole organisation, the skill and enthusiasm of the hundreds of workers and their instructors.

Japan has indeed given a lead to many other countries in the social re-integration and useful employment of paralysed and other severely disabled people, and Dr. Nakamura and his excellent staff have given a great service to the community as a whole by restoring severely disabled people to useful and respected citizens.

professor Sir Ludwig Guttman, C. B. E., M. D., F. R. C. P., F. R. C. S.  
Hon. D. Sc., D. Chir., LL. D.  
Founder and former Director of the National Spinal Injuries Centre,  
Stoke Mandeville Hospital, Aylesbury.

Prof. Sir Ludwig Guttman, C. B. E., M. D., F. R. C. P., F. R. C. S.,  
Hon. D. Sc., D. Chir., LL. D.

Founder and former Director of the National Spinal  
Injuries Center, Stoke Mandeville Hospital, Aylesbury.

ストークマンデビル病院  
国立脊損センター前所長

医学博士 ルードウイヒ・グッドマン卿

## 祝辞 太陽の家十周年記念によせて

太陽の家十周年記念にあたり、心からのお祝いのごことばを贈らせて頂くことは、この上もない喜びであります。

「太陽の家」は、私の教え子でもあり、又友人でもある中村裕博士の卓越した指導力のもと、小規模の仕事から始まり、今では脊損者や他の重度障害者に対する重要な産業活動にまで発展して参りました。第一回フェスピック大会中この工場を見学する機会を得、その組織は勿論のこと、そこでの数百人の労働者、指導員の技術、情熱に深く感銘を受けました。

日本は、脊損者や他の重度障害者の社会への再統合及び効率の高い雇用の面で他の国々に範を示し、また中村博士及びすぐれた職員の方々は重度障害者を役に立つ尊敬される市民として社会に送りだすと云う大貢献をされました。





太陽の家

10年のあゆみ

太陽の家 努力のおいたち



この10年

われらは

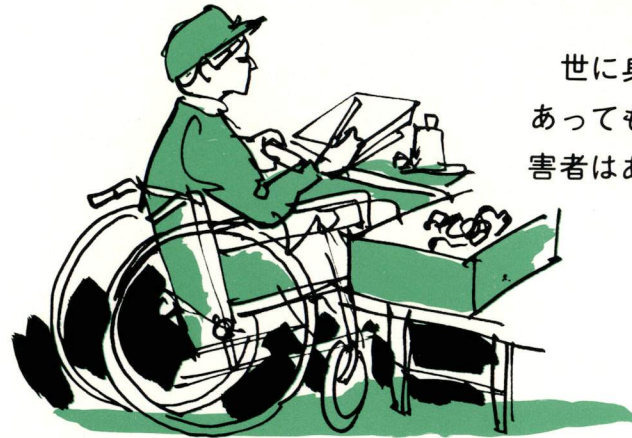
たたかい

かちとった



# 1/保護より労働を!

世に身心障害者はあっても、仕事に障害者はあり得ない。



太陽の家の誕生は、ひとつの新しい理念の出発であった。身体障害者は社会の庇護のもとに生活すべきものという一般通念に対する挑戦であった。最初の胎動は、アメリカのグッドウィル・イン

ダストリーズにヒントを得た「別府善意工場」の構想である。昭和四十年春、「身体障害者がどんな能力を失ったかは問題ではなく、どんな能力が残っているかが問題である。身体障害者に新しい希望を与える第一の大きな段階は、この人たちにもっとも適した仕事を見つけてやることである。」という設立趣意書が書かれた。ただし、九月十一日には「別府リハビリテーション・センター」の設立発起人会がおこなわれた。その間、善意工場設立のための準備があったが、アメリカでは成功しているグッドウィル方式も日本では成立しにくいことがわかったためである。

九月二十一日、別府市亀川の小野田セメント保養所を購入の前提で使用契約を結び、内部の改造にとりかかった。この段階では、肢体不自由児療育施設「別府整肢園」の付帯事業としての財団法

人「別府リハビリテーション・センター」を設立する予定であった。

九月二十八日の第二回設立準備会で、名称が「太陽の家」に決定。独立の社会福祉法人にすることになった。そして十月五日、開所式がおこなわれた。

四十年九月十九日付朝日新聞は、つぎのように報道した。

— 身体障害者の特技をいかそう 別府に「工場」  
建て自活 中村・水上氏ら来月中にも一部開所  
身体障害者だけで商品を製造し、その売上げで自活してゆく「身体障害者の工場」を大分県別府市につくろうという計画が、昨年のパラリンピック東京大会日本選手団長中村裕氏（別府整肢園長・国立別府病院整形外科医長）や、作家水上勉氏らで進められている。「工場」は来月中にも一部開所にこぎつけたい、と関係者はいつている。

— 将来は一般向け商品を量産  
中村氏と水上氏は十八日、橋本官房長官ほか、厚生省の社会・児童家庭・医務各局長、通産省重工業局長ら政府関係者に会い、計画実現についての援助を要請したところ、いずれも協力を約束。国有地の払い下げ、建設の際の国庫補助などについても明るい見通しがついた。

身体障害者福祉法は昭和二十五年四月、身体障害者雇用促進法は三十五年七月に制定された。しかし、なお身体障害者にとってまづ必要なものは収容施設の拡充であり、より手厚い保護であるとい



教訓を与えた廃品回収の失敗



う考え方が多数を占めていた。身障者が税金の消費者から納税者になること——社会復帰は、必要と考えられてはいたが現実性をもっていなかった。したがって「身障者の工場」の構想は、身障者に大きなよろこびと希望を与えるが、同時に、運営の困難さを予想させた。

太陽の家は、まず出発した。そして、社会福祉法人・身障者収容授産施設の認可を申請する。しかし、それによって「工場」の構想が消滅したわけではない。身障者が労働者として自立するには、それなりの準備期間が必要であった。

当初の構想から一歩後退した形での出発だったが、それは「一日も早い自立をめざす」戦いの開始だった。

蓮田のなかの細いこぼこ道に面した一、八〇〇坪の土地と、雨漏りがひどい九〇坪の建物で、女性二人を含む一五人の入所者が竹工、木工、金工、義肢装具、洋裁の仕事を始めた。

テレビ、新聞は、「希望に燃えて……」「はばたけ太陽の家」と報道したが、実際は正規の事務

職員もいない。入所者の食器も揃っていないという状態だった。

しかし、人びとは入所者の明るい表情からある確かなものを感じとったに違いない。正面玄関の麦と太陽のマークの下にそえられたことばは、すばらしい未来への期待をこめた戦闘宣言でもあった。

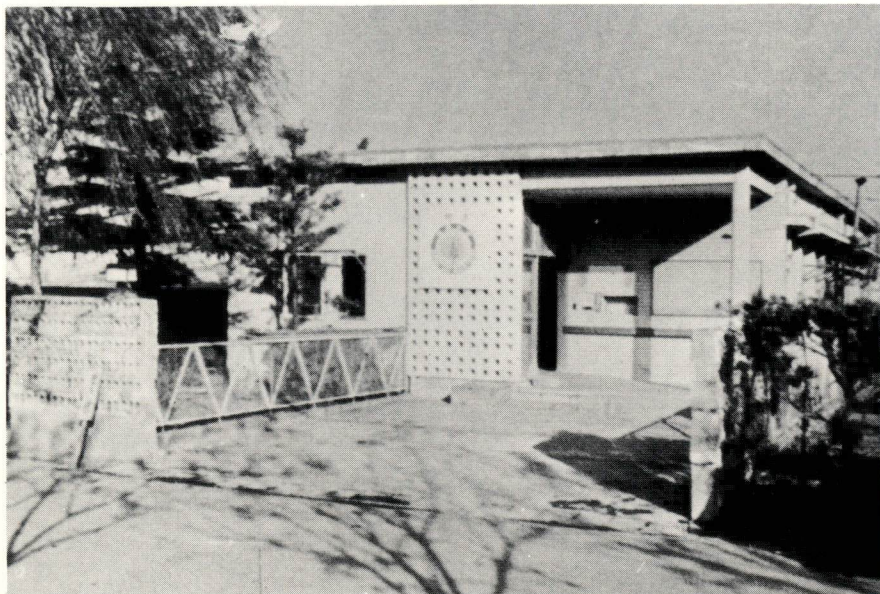
——麦にはきびしさがあります。麦は踏まれても踏まれても、ぐんぐん成長します。太陽に向かって伸びつづける麦の形には、団結を意味するものがあります。これは「太陽の家」のシンボルです。ジャパン・サン・インダストリーズは、諸外国のかたがたとの交りのための名です。これを機会に、全国に「太陽の家」の種がまかれ、発展していくことを祈ります。

設立当初の理事会メンバーは、つぎの方々だった。

理事長 高安慎一、常務理事 中村裕、理事 水上勉、黒木利克、山本清人、羽田野次郎、伊勢久信、監事 堀七衛、橋本和子



発足当時の管理棟





## 2 建設のあゆみ

入所希望者を1人でも多く収容し、事業を導入し、内部の充実をはかるため、本格的建設がスピーディに進行した。



太陽の家の基本プランは、収容者数一三〇名。宿舎、作業棟のほか機能強化センター、身障者宿泊施設、自動車練習場など総建設費一億二千万円と発表された。当時においては驚くべき規模であった。

年を越えて、四十一年一月、東京事務所が開設され、二月には補助金(国二、〇〇〇万円、県一、〇〇〇万円)が決定。「社会福祉法人」の申請も認可された。また、六月には四月にさかのぼって「収容委託施設」に指定された。これによって、小野田セメントへ土地・建物代金(二、五〇〇万円)を支払い、措置費収入によって事務費および入所者の食費がまかなわれるようになった。

また、三月末にお年玉はがき寄付金の配分(二五〇万円)、四月に年金福祉事業団からの借入金(二、八三〇万円)も決定するが、三月初旬には第一期の建設工事にかかっていた。

殺到する入所希望者を受け入れ、同時に新しい作業をおこなうために、これは最小限のものとして建設が急がれた。第一作業棟と、宿舎の由布寮

鶴見寮、食堂である。これで、約一三〇名の収容は可能になる。しかし、一三〇名の仕事をすることは第一作業棟だけでは不十分である。

六月末、隣接国有地(七、四七五平方メートル)の譲渡契約(一、六五〇万円)が成立し、七月、第二期工事のための日本自転車振興会補助金(二、五二四万円)が決定する。そして第一期工事の完成以前に第二期工事が始まった。第二、第三作業棟と二五メートル特殊プールである。

四十一年十月、太陽の家は第一目標としての宿舎、作業棟、プールが完備した。そしてこの年の十月二十二日大分国体においてになった天皇・皇后陛下、続いて十一月六日第二回身障者スポーツ大会においてになった皇太子ご夫妻をお迎えする。

四十二年一月、太陽の家の定員は一二四名となるが、入所希望者はますます多くなり、生産規模の拡大にも迫られるようになった。入所者の結婚希望に対しても、世帯用宿舎の建設が必要であった。

四十二年五月、文芸春秋新社の故佐佐木茂索社長より遺贈金(一、二〇〇万円)を受け、六月、日本自転車振興会の補助金(二、七〇九万円)が決定。第三、第四期工事に入った。第三期工事は女子単身および世帯用宿舎で、鉄筋三階建の桜寮

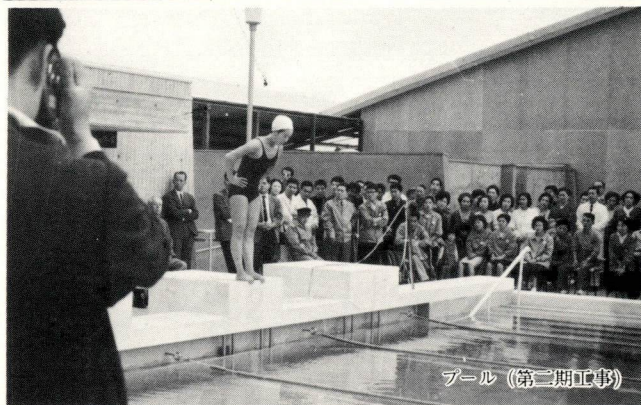


第一作業棟 (第一期工事)





さくら寮 (第三期工事)



プール (第二期工事)



佐佐木記念館 (第四期工事)

世帯用として1LK五室、2LK三室が設けられた。第四期工事は機能強化センター(屋内体育館で、佐佐木記念体育館と名づけられた。

両工事は四十三年二月に完成し、入所者数は一四〇名を超えた。こうして収容施設としては開所二年数ヶ月にして一応の水準に達した。当時では世帯用宿舎、体育館、プールなど他では見られず規模としてもすでに最大であった。

しかし、太陽の家は一日も早く「自立する工場」をめざさなければならぬ。つまり、収容授産施設は完成したとしても、「工場」を建てなければならなかった。授産部門を「工場」にきりかえることは事実上できない。授産部門の完成とともに、社会復帰する「工場」が必要になった。

そのため、さらに隣接国有地(六、六三三平方メートル)の払下げ運動をおこない、四十四年四月、三割減額(二、七八五万円)の譲渡が決定した。この時点で、土地総面積は約二万平方メートル、建物の延面積は約七千平方メートルとなった。

新しい土地に建てるべきものは、授産課程を終えたものための保護作業所、つまり「工場」であり、それら社会復帰するものの宿舎も必要であった。また、結婚したものために保育所も必要と考えられた。

すでに第三期建設の桜寮の一部に、身体障害者労働研究室が設けられていたが、その拡充も必要だったし、設立時の基本プランの一つ、身障者宿泊施設「憩の家」も見学者などのために設置が要望されていた。ただし、自動車練習場は、四十二年秋、市内に西日本身障者教習所が開設されたため、太陽の家でつくる必要はなくなっていた。

四十四年夏、一枚の設計図が関係者に示された。六階建保護工場ビルの基本案である。保護工場とは、建設・設備費は国が負担し、運営は法人がおこなうもので、完全な社会復帰の前段階——施設内社会復帰として考えられた。もちろん、その実現には法律改正が必要だが、太陽の家は「工場」へ前進しなければならない。

この計画案は各方面に大きな衝撃を与えたが、賞賛または好意的反応は決して多くなかった。理事會においても「時期尚早」「一足跳びの飛躍は危険」「拡張より充実が大切」などの意見があり、厚生省も難色を示した。他の施設で運営の失敗が問題になった時期でもあった。また、数億円にのぼる建設予算を一度に手当てすることは不可能とも考えられた。

計画案は三分の三階建に縮小され、さらに日本自転車振興会補助金(五、九〇三万円)に合わせて二階建(延一、八七五平方メートル)となる。



四十五年七月、当初の計画の三分の一となった建設が始まるが、基礎工事は六階建を想定しておこなわれた。

九月、社会福祉事業振興会からの借入融資（四、五〇〇万円）が成立。自己資金調達の見途も立つたため、四階建に計画変更し、工事を続けた。

しかし、四階建というのは最初に六階建の構想があるだけに中途半端なものであった。四階建が完成後に増築することを考えれば、多少無理でも六階部分までつくってしまうことが工費も安上りになる。そこで、あゆみの箱からの寄附金（三、五〇〇万円）その他の資金を得て、ふたたび六階建に変更した。

この再三の計画変更は、資金獲得の戦歴を示すものであるが、太陽の家の積極的姿勢を関係者はあらためて強く印象づけられたに違いない。四十六年四月、六階建（延八、〇四八平方メートル）の本館は完成する。ただし、三階以上はコンクリートの打ち放しの状態だった。

三、四階は竣工とともに授産科目が入り内装されるが、五、六階の宿舎・機能強化センターなどが完成したのは四十七年九月である。

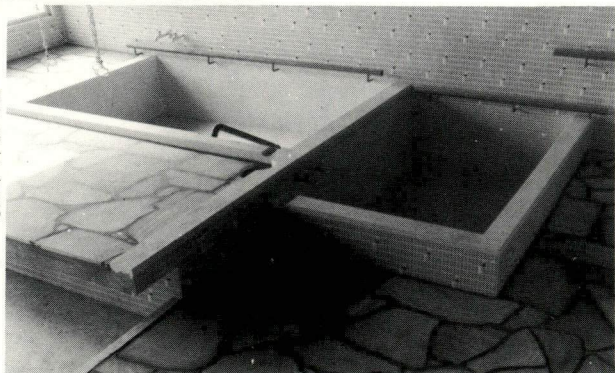


完成した六階建本館

本館工事とならんで温泉のボーリングも成功した。泉質は含重曹食塩水で温度50度C。一分間90ℓが自噴する。別府市の補助金（九〇〇万円）により、四十六年四月温泉浴場が完成。一部は「太陽の湯」として地域住民に開放、好評を得ている。そして、この浴湯と本館二階の間に、大阪万博の「動く歩道」が据え付けられた。（富士グループよりの寄贈）。

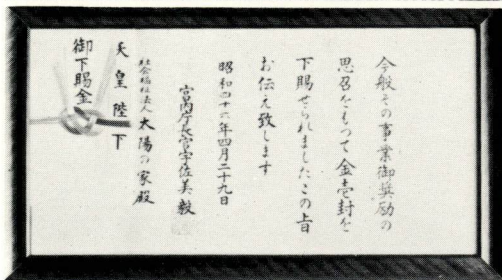
また、四十六年二月には清水基金より空調工事助成金（七〇〇万円）が交付され、暖冷房設備がおこなわれる（同基金からは四十九年三月にも五〇〇万円の空調工事助成金を受ける）。

四十六年四月、天皇陛下より事業奨励の御下賜金をたまわり、六月には重度身体障害者収容授産



温泉浴場

御下賜金（昭46・4）



アジアリハビリテーションセンター ペナント



施設に指定され、またグッドウィル・インダストリーズのアジア・リハビリテーションセンターに指定された。

続いて十月には身体障害者機能開発センターを開設。福祉工場「オムロン太陽電機(株)」が設立されるが、これらについては別項で述べる。

四十七年九月、日本船舶振興会の補助金(二、八五六万円)により、研修センターが完成した。

身障者宿泊施設を設けることは、定款にも定められていたが、国内見学者ばかりでなく外国人の訪問も多く、留学・研修の希望にこたえる必要があった。そのため旧管理棟を解体——太陽の家発

祥の建物は残念ながら姿を消した。——喫茶ロビー、研究会議室、宿泊設備(和室三、洋室二)、娯楽・図書室・茶室・シャワー室を備えたセンターが生まれた。

四十八年八月、杵築市塩屋崎のみかん園(一、八二ヘクタール——一八、一九〇平米)を取得。四十九年三月、さらに追加取得(一・四六ヘクタール——一四、六五〇平米)した。取得額は合計三、四〇〇万円である。

これによって、太陽の家の土地総面積は五二、八九八平方メートル、建物延面積は二〇、二三七平方メートルとなった。



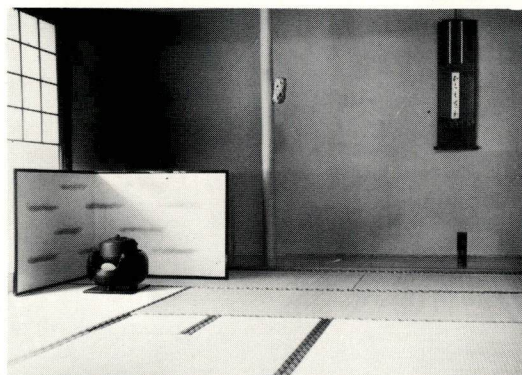
研修センター全景



ラウンジの活用



和室



茶室



### 3/労働と蓄積の歴史



太陽の家に働くものは被護者  
でなく労働者であり  
後援者は投資者である。

(杉本印刷所に委託)し、金工部・印刷部の生産態勢をととのえた。そして、大阪の早川電機、京都の綿久寝具への働きかけを始めた。

パイプ椅子の生産とともに洋裁科を縫製科とし、椅子に張るビニール・レザーの縫製がパイプの熔接に並んでおこなわれる。これは四十二年春から独立生産・自主販売システムをとるが、販売の失敗から廃止となる。しつかりした体制がとれないままに走り始めた失敗であり、貴重な体験だった

“自立”への第一ラウンドは、一般企業なみになることがいかにもむずかしいかを教えてくれた。そして実力をまず蓄えることと、それまでは慎重すぎるほどの安全策をとらねばならないことを教えてくれた。

四十二年五月、第一作業棟のクリーニング科(綿久寝具)と、第二作業棟の木工科(早川電機)が始まる。

クリーニングは病院基準寝具を扱い、木工科は電気コタツを製作する。この日から、モーター音がびびく作業棟は“工場”と呼ばれるようになる。そして、木工科早川は直営工場、クリーニング科綿久は協力工場というように、二つのシステムが採用される。

“直営”は、太陽の家が工場・機械・作業員を提供し、企業は最低賃金を保証する。“協力”は、建物と作業員を太陽の家が提供し、企業は機械と賃金のほかに毎月一定額の管理費を負担する。

木工科早川の場合は、四十二年五月に機械を据付け、七月には“A2級”ランクで初出荷する。しかし、この機械設備費(一、六二五万円)は日本自転車振興会の補助金(一、二〇〇万円)によるものである。当初は、作業員二十六名で日産七〇台だったが、四十八年には作業員七〇名で日産八五〇台になった。現在は、作業員六〇名で日産一二〇〇台ができるようになった。

四十二年暮、パイプ椅子製作を廃止したあと、関西バーラックが入る。ミノルタ・カメラのレンズキャップと圧板の製作である。また、四十三年夏にはメジャー・メーカーの京都度器が、いずれも協力

発足当初の授産科目は金工、木工、竹工、義肢洋裁の五科だったが、いずれも生産性は低かった。多数の入所者を迎え、“工場”をめざすとすれば、授産施設でありながらも、より近代的業種を導入し、より生産性を高めなければならない。そのための協力企業探しは、施設の建設とともに休むことなく続けられた。

土地・建物が整備されてはじめて企業導入の交渉をすることができ、より生産性の高い作業をすることによって施設の建設を進めることができるからである。

別府は保養・観光地であるから、生産の地理的条件は不利である。全国各地方に下請企業が分散する以前は、たとえば大阪から企業を導入することも大変だった。それを可能にしたのは、施設の完備とともに真面目で熱心な入所者の勤労意欲である。

四十一年は、大分市菅製作所からパイプ椅子製作の仕事をもらい、エレファックス印刷機を購入



工場として入った。そしてベルトコンベヤー・システムが始まる。

四十四年春には直営のプラスチック科も始まった。当時、東九州では最初のプラスチック射出成形加工であった。清水市の川口鉄工所より五オンス射出成形機一台と付属器具一式を寄贈され、奈良県の関屋化学が製品の一括購入をした。

作業員は二交代一六時間稼働から、三交代二四時間稼働をおこない、身障者の夜間作業が論議されたが、仕事の性質上やむをえないことであり、又作業員の疲労度を科学的に調査した結果何等支障ないことが立証され、社会復帰の厚い壁を乗り越えるためにも必要なことであった。

しかし、綿久寝具、京都度器、関西エバーブラックとも、企業側の都合で引揚げていくことになる。

設立当初からの竹工（並松製簾所）と義肢補装具（別府義肢）も、生産性向上のペースに乗り切れずに引揚げる。

四十五年夏、第2プラスチック（京屋工芸）が始まる。マネキンの製作である。この秋、京都度器が引揚げたあとへ同じメジャー・メーカーの田島製作所が入る。九月三十日に京都度器が作業を終え、翌十月一日から田島の作業が始まるという手ぎわのよさだった。

四十六年春には医療器機科（川澄化学）も始まった。注射針の生産である。

しかし、京屋工芸は石油ショックのあおりを受け、川澄化学は大メーカーの安値攻勢に敗れて、いずれも四十九年春と夏に撤退する。

生産性を高め、事業の安定化をはかるためには常により有望な業種の選定を怠ることができない。しかもなお、経済の変動、業界の好不況の波は最もきびしい形で谷間を直撃するのである。

四十六年夏、サン・アップ工芸荒尾作業所（神棚製作）、同じ秋、伏野唐木木工（高級家具）が始まり、四十九年暮に釜我つげ工芸（つげ細工）が入り、木工はシャープ（早川）と合わせて四科に

なった。

また、福祉工場「オムロン太陽電機」（後述）の創設にもなつて、その部品を提供する応用資材が四十七年秋に始まった。

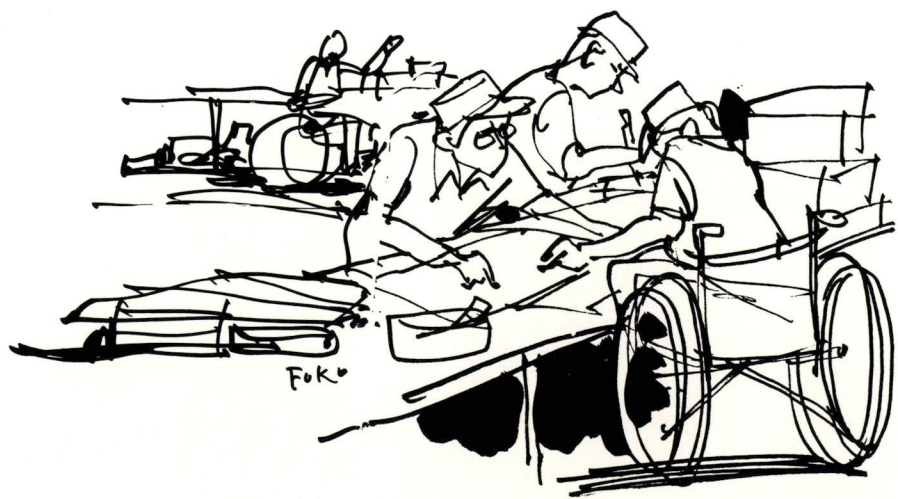
四十八年秋には、杵築のみかん園取得にともない、園芸科が発足する。

四十九年夏には、特機科ソニー（ポケット・ラジオ製作）、同じ秋には特産科O・S・K（しいたけ包装）も始まった。

五十年六月には太陽二平株式会社が設立され、シャープコタツヤグラの製作をつげ同時に、ソニー太陽機器が通産省福祉機械モデル工場の委託事業として電動車椅子の試作を開始した。

又同年夏には、エスカレーター用車椅子を自主生産し、沖縄海洋博会場へ二〇台送った。

こうして五十年秋現在、授産部門では九科二二業種の作業がおこなわれている。





### 主要事業種目変遷概況表

科 目	形 態		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	現 存
	区 分	協 力 企 業												
竹 工	管理	並松製簾所	10					5						
義 肢	直営 管理	別府義肢	10					9						
木 工	リハビリ器	直営	10		12									
	シャープ (コタツ)	直営 管理			5	Ⓞ				Ⓞ		6月	(太陽二平)	○
	サンアップ (神棚)	管理							8					○
	唐 木 (高級家具)	管理								12				○
金 工	プレス パイプイス	直営	10		12									
	エバー (カメラ商品)	管理			11					10	Ⓞ			
	京都度器	管理				6		9						
	田島製作所	管理						10	(組立)		10	(ヒートセット)		○ ○
プ ラ ス チ ック	第 一	直営						2	(関東化学)(九州化学)		(田島巻尺ケース)			○
	第 二	管理						6				1	Ⓞ	
ク リ ー ン グ	管理	綿久寝具			5					11	Ⓞ			
印 刷	管理	杉本印刷		11										○
医 療 機 器	直営	川澄化学							4			8	Ⓞ	
そ の 他	応用資材	直営								4				○
	特機ソニー	直営										10		○
	特 産	直営										10		○
	工 芸	管理										12		○
	工 作	直営											6	○
園 芸	直営										10		○	
福 祉 工 場	管理	オムロン太陽電機								4				◎



## 4/福祉工場 オムロン太陽電機

税金の消費者から納税者  
への道が始まった。  
みずから株主でもある働く  
ものの新しい地平が開かれた。



太陽の家は、身障者が自立できる労働環境をつくるために設立された。そのために、まず「善意工場」の構想をもったが、周囲の状況から一歩後退して授産施設の認可を受け、実力を蓄積してきた。

多くの関係者に無謀にちかいついて印象も与えた六階建本館の設は、「自立」への積極的意志の表明でもあった。これは設計段階で「保護工場」ビルと呼ばれたが、その当時、自主工場を運営する成算があったわけではない。現実に三、四階の作業場は授産科目が使用するのである。

しかし、時は意外に熟していたといえよう。厚生省は、「福祉工場」の法制化に真剣に取り組み始めていた。

福祉工場とは、一般企業に適応しにくい重度身障者を、設備の整った環境で完全雇用するという形の社会復帰策であり、建設費のほとんどは国と県が負担し、経営を法人に委託し、運営に必要な職員の人件費など事務費を国が補助するというものである。

こうしたものが絶対に必要であることは、すでに趨勢になっていた。しかし、この時期に国の姿勢が急転回したのは、強引ともいえる太陽の家の「保護工場」ビルの完成が引金となったといえるだろう。

善意工場・保護工場・福祉工場はいずれも広義の施設内での社会復帰という同じ意味をもっている。

厚生省は四十六年度予算で別府市など全国三か所に福祉工場の新設を決定する。

すでに太陽の家では、本館建設以前からそのための企業探しをおこなっていたが、交渉は難航していた。制度の裏付けがないからである。「保護工場」用の本館は、やむなく授産作業に使い、新しい授産科目をふやした。そうした時であった。

ふたたび活発な企業探しがおこなわれる。そして、橋本登美三郎氏及び秋山ちえ子評議員の斡旋により、京都の立石電機（株）が決定する。

国および県の補助金（計六、〇九九万円）が決定し、鉄筋三階建（延二、〇五一平方メートル）

の工場（一階）と宿舍（二、三階）に着工したのは、四十六年十一月。十二月には、授産生から選ばれた福祉工場従業員候補の準備訓練に入った。

福祉工場の社名は「オムロン太陽電機（株）」資本金五〇〇万円は、立石電機側六〇パーセント太陽の家側が四〇パーセントで、従業員の持株会「太陽会」が全体の一四パーセントを持つことになった。

運営システムは、太陽の家が工場の整備、運営従業員の給食、健康管理、福利厚生を担当。オムロン太陽電機は機械・材料を持ち込み、生産指導販売にあたる。また、生産活動に必要な費用を委託契約にもとずいて太陽の家に支払う。太陽の家はその収入によって従業員の賃金・諸経費をまかなうというものである。

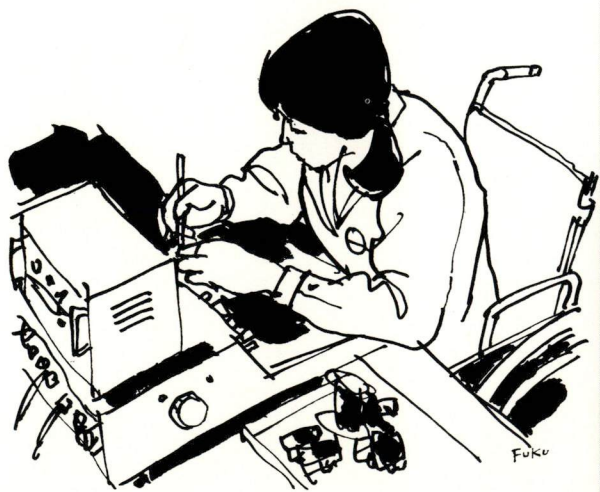
四十七年四月、ついに福祉工場は操業を始めた。太陽の家の前身ともいえるべき「別府善意工場」の設立趣意書が書かれてから、ちょうど七年目である。脊損一級の吉松時義君が工場長に選ばれ、六



○名の従業員がマグネット・リレー組立てのラインについた。

完全な一般企業ではないにせよ、従業員と工場は一般と同じ雇用関係を結んだ。従業員は社会保険に加入し、税金を払う立場となった。

運営は順調である。初年度から黒字を計上し、不況期にも大幅な生産上昇で高配当を記録した。五十年春からは電卓の一貫組立て作業にきりかえられたが、生産性、品質ともに非常に高い。この実績は、太陽の家のモットー「仕事に障害者はあり得ない」を如実に示すものといえるだろう。





## 5 / スポーツと 機能開発

身障者にとって重要なのは  
どんな機能が残されているか  
である。そして、その残存機能を  
十分に生かすことである。



太陽の家設立の大きな端緒はスポーツである。

中村(現)理事長は昭和三十五年、イギリスの国立ストークマンデビル脊髄損傷センターに留学し、治療・訓練にスポーツがはたす大きな力を知り、帰国後、身体障害者スポーツ協会を組織し、東京パラリンピック開催を推進したが、その結果つかんだことはスポーツで残存機能を回復強化し自立心を高めることが社会復帰への近道になるということだった。また、スポーツによる機能強化とともに科学的な機能開発も必要とされ、太陽の家は身障者の残存機能を十分に活用して社会復帰につなげるセンターとして考えられたのである。したがって、建設の初期においてまず特殊プール(四十一年十月)、佐佐木記念体育館(四十三年二月)をつくり、四十三年には日本で最初の身障者労働研究室を発足させた。

四十四年八月、第十八回国際ストークマンデビル競技大会に、太陽の家から江藤秀信、森崎一晴の両君が出場。四十七年八月のハイデルベルヒ・

パラリンピックには田中慶博、梅田幾世の両君が  
出場。いずれも日本代表選手として活躍するが、  
毎年おこなわれる身障者スポーツ大会(国体)や  
車椅子バスケットボール大会にも、太陽の家チー  
ムはすぐれた成績を残している。

そして五十年六月、第一回極東南太平洋身体障  
害者スポーツ大会(FESPIC)フェスピック  
が大分・別府両市で開かれる。これは、はじめ太  
陽の家設立十周年記念として企画されたが、その  
開催意義、大会規模の大きさから日本身体障害者  
スポーツ協会、大分県身体障害者体育協会が主催  
となった。

一八か国、約千名の選手・役員が集まった大会  
はすばらしい成功をおさめるが、これによって身  
障者にスポーツがいかに大切かがあらためて広く  
認識された。

身障者の残存機能を活用するための努力は、重度  
障害者の多い太陽の家では早くからおこなわれた。  
設立当初の建物の改造以後、新しい建物のあら  
ゆる面にそのための設計がほどこされ、機械設備  
は改造され、日常生活器具(自助具)の開発がお  
こなわれる。設計面では九大青木研究室、日大木  
下研究室の協力が大きく、機械工具の改良では東  
大生産技術研究所、国立別府病院の協力があつた  
自助具も含め、欧米先進国で開発されたものをい  
ち早く採用したが、それをさらに上まわる開発も  
おこなわれている。

実験の一例は四肢麻痺者用モデルハウス・「テ  
トラエース」である。これは東大・池部陽教授、  
東工大・森政弘教授およびナショナル住宅建材の  
協力によって四十五年末につくられた。また、四  
十三年夏につくられた呼吸式自動工作機は十分に  
実用性があり、四肢麻痺者も環境さえ整えられれ  
ば自力で働き、生活できることを示唆した。

さらに身障者の生活労働能力、体格計測、体力  
(筋力、筋持久力)測定、到達範囲の測定、疲労  
と生産能率の研究、褥瘡予防の研究、生化学的・  
心理学的研究、新しい補助器具、設備工作機械の  
操作システム、車椅子の改良開発、自動車運転テ  
ストなどさまざまな研究開発がおこなわれている



その一部は畑田（現）常務理事の「身体障害者の労働医学的研究」にまとめられているが、最近では脳性麻痺者の就労実態調査なども進められている。

身障者労働研究室は、三菱財団等の研究助成金を得て充実するが、四十六年十月、日本自転車振興会の補助金（二、五五二万円）により「身体障害者機能開発センター」となった。

これまでの助成・補助金は、あゆみの箱（三七六万円）、日本船舶振興会（六〇〇万円）、三菱財団（二、四五〇万円）、日本自転車振興会（二、五五二万円）、日本肢体不自由児協会（二〇万円）中央競馬社会福祉財団（二五〇万円）、大分県（六〇〇万円）、労働省（八〇万円）の計六、九一七万円。

四十九年五月、「サン・インフォーメーション・センター」を東京に開設した。一般の身障者に対して必要なあらゆる情報を提供し、専門的相談に応ずる窓口である。ICTA（身障者技術援助委員会）日本支部アジアセンター、として、ICTAニュースを発行し、内外の自助具を展示、その入手法や使用法の助言もおこなっている。

もちろん日本でははじめてのサービス機関であり関係方面から寄せられる期待も大きい。運営費として厚生省より補助金（年間五〇〇万円）を得、独立の法人組織にする準備が進んでいる。

第一回フェスティックは、発展途上国の身障者にはじめてスポーツに参加するよろこびを教え、これまで脊損者中心だったスポーツ大会を全身障者のものとした。五十一年にカナダのモントリオールでおこなわれるパラリンピックは、ストークマンドビルの伝統を破って全身障者の大会とすることに決定したのである。その意味で非常に大きな成果があったといえよう。

また、大分・別府という地方都市ではじめての国際大会を開いたこと、太陽の家が実質的中心になって成功したことも意義があった。

— 発想者・実行委員会事務局局長は中村理事長であ



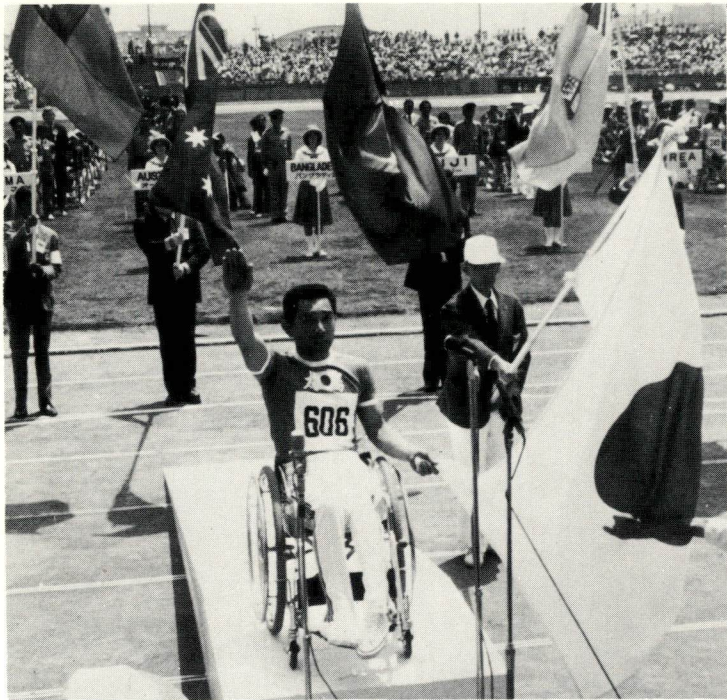
活躍の実績



県体育大会の一場面



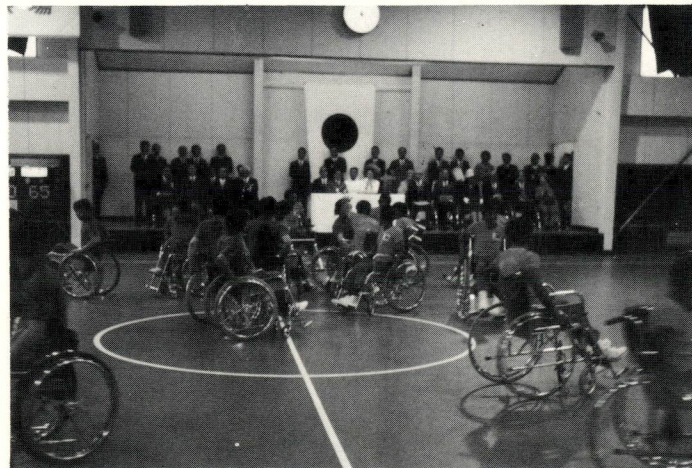




フェスピック開会式（吉永栄治の宣誓）



開 会 式（皇太子御夫妻）



車椅子バスケット（太陽の家競技場）





り、井深大（会長）、秋山ちえ子（評議員）両氏は、フエスピックに発展途上国を参加させる会をつくって、側面から強力に援助した。

太陽の家機能強化センターは、バスケットボール競技および閉会式会場として、日本自転車振興会補助金（八、八七二万円）により大改装をしたが、競技では収容しきれぬほどの観客を集め、閉会パーティでは全館が興奮と感激のるつぼとなった。

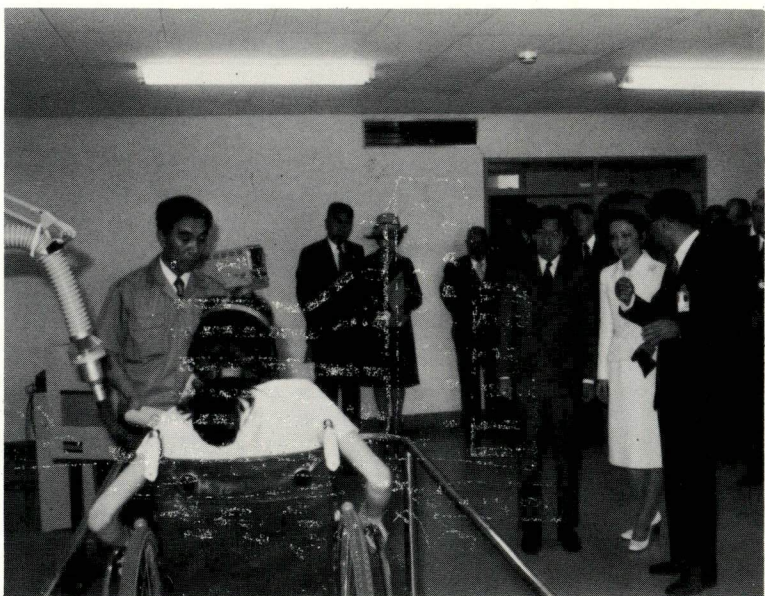
九年ぶりにおいてなられた皇太子ご夫妻は、太陽の家の発展成長に驚かれたが、同時に身障者問題にいつそう深いご理解を得られたご様子だった。

発展途上国の選手と関係者は、完成された施設と作業内容にさらに驚き、強い刺激を受けたようだった。そして太陽の家の入所者は、身障者同士

の国際的連帯感と友情をわかち合い、社会的視野を広め、生きる自信を強めた。

大会終了後に、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン・インドネシアなど一〇か国による「フエスピック情報センター」（会長・中村理事長）が発足したのも大きな収獲である。身障者に必要なあらゆる情報を交換するとともに、基金を設けて太陽の家へ留学・研修生を迎えるというもの。そして最初の二年間は、太陽の家に事務局を置くことに決定した。

スポーツによる残存機能の強化と、科学的研究による機能開発は、太陽の家の設立と発展のベースであり、広く国際的交流という成果を生んだ。こうしたことは従来の施設にはみられなかったことであり、太陽の家を特徴づけるものといえよう。



皇太子殿下御夫妻行啓



フエスピック閉会式（太陽の家）



## 6/建設資金について



太陽の家の急速な発展は、多くの善意の寄金と補助・助成金等によって支えられた。太陽の家は全国民的支援の結晶である。

設立当初、太陽の家はいわば無資本であった。理想的な「工場」づくりから、「社会福祉法人・収容授産施設」の認可申請へ急転回したのは、実に建設資金獲得策であったといえる。

最初の土地・建物は、母体であった別府整肢園の担保によって使用し、翌四十一年の社会福祉法人認可、国庫県費補助金交付によって購入できたのである。そして、年金福祉事業団からの融資、お年玉はがき寄付金によって、第一期工事をおこない、隣接国有地を購入し、さらに日本自転車振興会の補助金によって第二期工事をおこなうというように、太陽の家の建設の歴史は資金獲得の歴史でもある。

また、「No charity but chance」をかけたが、当初五千万円、ついで一億円の募金をおこなったのも、建設のためであった。十分な設備がなければ、働く機会は与えられないからである。

寄付はまず日本タッパーウェア（八〇〇万円）東洋工業（軽自動車三台）、般若苑・畔上てるる

さん（三〇〇万円）、匿名老人（一〇〇万円）から始まり、主婦・OL・学童の小使い送金まで、十年間の善意の集積は膨大なものとなった。

たとえば、故佐佐木茂索氏の遺志によって建てられた体育館の舞台の緞帳は、画家の朝倉摂氏が無料で描いてくれたもの。その緞帳の製作費は宮崎マツダ・大分マツダの寄付。舞台で演奏される所内楽団の楽器一式は日高市蔵（現）理事の寄付というぐあいである。

市内および東京中心に募金箱を設置したこともあり、所得税法・法人税法上の指定寄付金（免税）も四十一年七月から三年間（目標五千万円）と、四十六年三月から二年間（目標一億円）が認可され、募金額は合計約一億二千万円（物件寄付を含まず）に達した。

補助金については国と県、日本自転車振興会や日本船舶振興会など。建設目的によって交付される可能性のあるものにはすべて申請したといつてよい。ただし、建設が必要と認められても国は総額の四分の2、県が四分の一を負担となっているから、常に自己負担金四分の一を用意しなければならない。この自己負担金は、日本自転車振興会などについても同様である。

自己負担金を捻出するためにも募金は必要だったが、手持ち資金不足の場合は、特別融資を受けることになった。社会福祉事業振興会、年金福祉事業団等の低利長期貸付金である。この利子については、四十七年から県の半額補給制度が実施され、返還計画が立てやすくなった。

他に三菱財団、清水基金等の補助・助成金があり、あゆみの箱やお年玉つき年賀はがき等の寄付配分金もある。

これら多くの理解と協力によって太陽の家は建設された。



# 主要資金調達概況表

(昭和50年8月までの分)

区 分		総 合 計 (昭50.8月まで)	年 度											
			40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
補 助 金	国 庫	6417 <sup>万</sup> .1	2020 <sup>万</sup> .5						② 100 <sup>万</sup> .0	4066 <sup>万</sup> .6		② 80 <sup>万</sup> .0	② 150 <sup>万</sup> .0	(未定)
	県 費	4148 <sup>万</sup> .03	1010 <sup>万</sup> .25							2033 <sup>万</sup> .33	(利補) 156 <sup>万</sup> .65	(研) 200 <sup>万</sup> .0 (利) 249 <sup>万</sup> .2	(研) 220 <sup>万</sup> .0 (利) 278 <sup>万</sup> .6	(未定)
	日本自転車振興会	24825 <sup>万</sup> .0		2524 <sup>万</sup> .0	2709 <sup>万</sup> .0	1200 <sup>万</sup> .0			5978 <sup>万</sup> .0	2551 <sup>万</sup> .0		991 <sup>万</sup> .0		8872 <sup>万</sup> .0
	日本船舶振興会	3456 <sup>万</sup> .0					600 <sup>万</sup> .0				2856 <sup>万</sup> .0			
	そ の 他	1150 <sup>万</sup> .0	(お年玉) 250 <sup>万</sup> .0						(別府市) 900 <sup>万</sup> .0					
成 金	三 菱 財 団	2450 <sup>万</sup> .0						800 <sup>万</sup> .0	1100 <sup>万</sup> .0				550 <sup>万</sup> .0	
	清 水 基 金	1200 <sup>万</sup> .0						700 <sup>万</sup> .0				500 <sup>万</sup> .0		
	中 央 競 馬 社 会 福 祉 財 団	250 <sup>万</sup> .0								250 <sup>万</sup> .0				
	そ の 他	50 <sup>万</sup> .0							(日肢不協) 10 <sup>万</sup> .0		(前川) 40 <sup>万</sup> .0			
寄 付 金	あゆみの箱	3976 <sup>万</sup> .0			100 <sup>万</sup> .0		376 <sup>万</sup> .0	3500 <sup>万</sup> .0						
	募 金				← 5,000 <sup>万</sup> .0 目標 (4,000 <sup>万</sup> .0達成) →				← 3 1億 目標 (8,000 <sup>万</sup> .0達成) →					
	物 件 寄 付	(省 略)												
	そ の 他													
年度合計 (募金を除く)		② 47922 <sup>万</sup> .13	3280 <sup>万</sup> .75	2524 <sup>万</sup> .0	2809 <sup>万</sup> .0	1200 <sup>万</sup> .0	976 <sup>万</sup> .0	11978 <sup>万</sup> .0	9760 <sup>万</sup> .93	3262 <sup>万</sup> .65	2060 <sup>万</sup> .2	1198 <sup>万</sup> .6	8872 <sup>万</sup> .0	
借 入 金	会福祉事業振興会	12500 <sup>万</sup> .0	2000 <sup>万</sup> .0				2000 <sup>万</sup> .0	4500 <sup>万</sup> .0	2000 <sup>万</sup> .0				2000 <sup>万</sup> .0	
	年金福祉事業団	2830 <sup>万</sup> .0	2830 <sup>万</sup> .0											
年 度 合 計		② 15330 <sup>万</sup> .0	4830 <sup>万</sup> .0				2000 <sup>万</sup> .0	4500 <sup>万</sup> .0	2000 <sup>万</sup> .0				2000 <sup>万</sup> .0	



## 7/いま、人間回復へ

働くことによって希望が生れる。  
貯金をふやし、結婚し、子どもを育てる。やがて自分の家を持つこともできるだろう。ごくふつうの人間として幸福をつかむのだ。



ろか、ラジオもなかった。寒ければフトンにくるまり、暑ければハダカになるだけだった。手取り賃金が赤字のものも多かった。それでも懸命に働いた。働けるというよろこびが、すべてに優先したくましさを育てた。このきびしさに耐えられず退所するものもいたが、一般企業に就職したのも少なくない。

しかし、重度のものは真面目で仕事の能力があつても、一般企業に受け入れられない。彼らは福祉工場の設立によって社会復帰することになるわけだが、逆にいえば、彼らの存在が太陽の家のひとつの柱になった。

きびしい時代を戦つたものの存在は、ときに被保護者の気分で入所するものに強い感化をおよぼし、設立の理念を浸透させた。それはユートピア社会というほどではないにせよ、働くことによつて充足できる社会の実現をめざすひとつの合意である。

自治組織「木の芽会」が生まれ、機関誌「むぎ」が発行され、クラブ活動が活発になった。管理される立場から、みずから管理する立場へ。権利の主張から義務の自覚への発展である。

自治組織は、福祉工場設立とともに授産生・福祉工場従業員・職員が一体となつて「むぎの会」をつくる。授産部門も福祉工場も事務局も、ひとしく「われらが太陽の家」なのだ。そして新しく「太陽新聞」が発行される。

入所者同士の結婚第一号は四十一年。沖津一男君（脊損一級）と上野久子さん（両下肢不全二級）らしい五十年夏まで六一組を数える。

脊損者同士、脳性麻痺者同士、脊損者と脳性麻痺者など重度のカップルも多い。人なみな結婚などできないとあきらめていたものも、健全な家庭生活を営んでいる。経済的にささやかな生活であつても、充足度は高い。六一組全部が円満である。

結婚については医学的指導がおこなわれるが、脊損者同士で妊娠した例もある。そして現在、所内には六人の乳・幼児がいる。本館一階の保育室（無料）もますますにぎやかになることだろう。

一五名で出発した太陽の家は、現在、入所者・従業員・職員の総数が四百名を超える。

発足一年目の平均賃金は三、〇〇〇円だったが、五十年現在の平均賃金は三五、四〇〇円（授産部門）福祉工場の平均給与は六万円を超えた（六八、五〇〇円）。もちろん一般社会の給与ベースにくらべればまだまだ低いですが、生活のレベルは確実に向上してきた。

四十八年四月には、授産部門にも社会保険が適用されるようになった。

入所者のマイカー人口が四〇人を超え、入所者同士の結婚が六〇組を超えたのも、おそらく施設としては、記録的な数字であろう。入所者の定期預金額も相当な額に達している。

一度は人生に絶望したのも、いまは懸命に働き、堅実な生活設計に将来の夢を描きこむようになったのである。

十年前は、ただ太陽の家をみんなの力でつくりあげようという情熱だけがあつた。マイカーはお





結婚者のカップル

四十七年末、福祉工場に隣接して雇用促進住宅が建てられた。

結婚希望者がふえるに従って世帯用宿舍の増築に迫られたため、労働省・雇用促進事業団に建築を陳情していた一般住宅である。この一階部分は、車椅子使用者が生活できるように設計してもらい、二階には歩行可能なものの入居を優先的に扱ってもらった。三階以上は一般勤労者が入居している。太陽の家は設立当初から“工場”をめざしてきたが、それは施設という閉鎖社会を打破する意図でもあった。みずから閉鎖社会をつくって、それから社会へ復帰することはむずかしい。たとえ施設であっても社会と融合する生活をもたなければならぬという考え方である。

四十八年七月、別府市は全国五都市とともに“福祉モデル都市”に指定されるが、この指定には“むぎの会”・福祉都市を促進する会の活動があった。身障者が生活しやすい都市環境をつくることは、一般市民にとっても重要なことだが、やはり身障者自身の努力で突破口を開かねばならない。“福祉都市を促進する会”は、“ハンディキャップべつぷガイド”を製作するなど活発に活動す



る。そして、別府市役所、市民会館などの出入口のスロープ化や、公園のトイレ改造などがおこなわれる。

太陽の家の入所者は、早くから街へ出る積極性をもっていた。多少のゆとりがあれば、ドライブインやレストラン、ホテルのボウリング場などへ誘い合って出かける。そういう折にも街や建物の構造がきわめて具合が悪いことを痛感していたし、それだけに運動も活発になった。

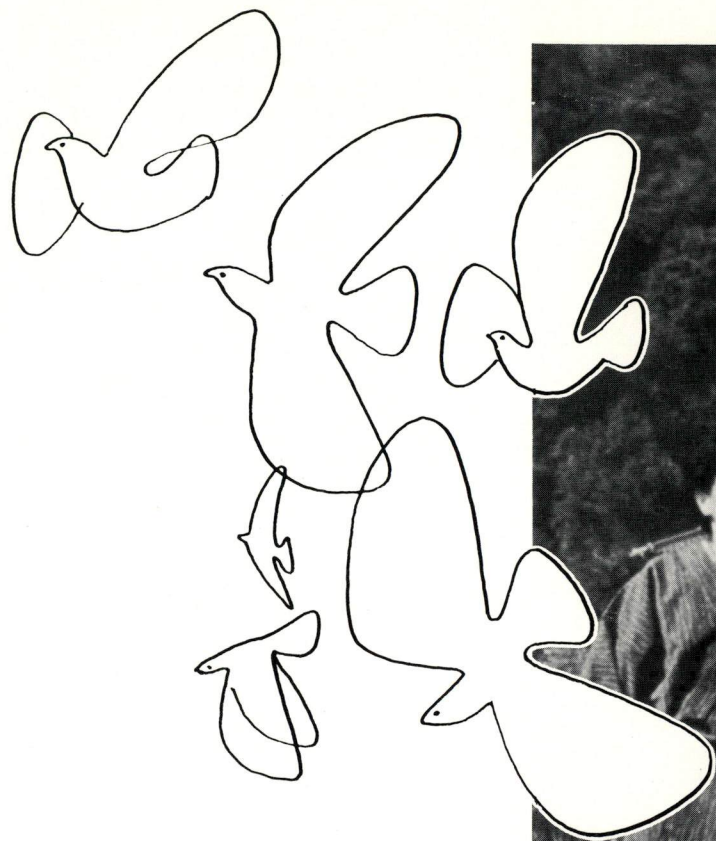
太陽の湯は仕切りをしてはいるが、地域の人たちと同じ湯につかる。研修センター会議室はライオンズクラブなどに会場を提供し、喫茶室には近所の人々が立ち寄る。体育館は選挙の投票場にもなる。太陽の家は地域社会と融合し、その核的存在になろうとしているのである。

五十年四月、別府市議会議員選挙に事務局企画広報室長・吉永栄治君が立候補し、当選した。全国初の車椅子議員である。

苦戦が予想されていたが、“光の園”長田シゲ園長（太陽の家評議員）が後援会長となり、水上勉理事、秋山ちえ子評議員、野末陳平参議院議員“ねむの木学園”宮城まり子園長などの応援と、職員・入所者の活動で上位当選をはたした。

これは単に別府市政の問題ではない。全国百数十万の身障者の代表として、社会へ恩返しをしようとする輝やかな一歩なのである。





当選した吉永栄治 別府市会議員

「仕事はつらい。でも私は幸せだ。それは働けることの幸せと、強く生きている現実とが生み出したものだ。私はまだ若い。人生はこれからだ。夢をもとう、夢をつくろう」（『むぎ』第3号）

杵築の農園は、重度の脳性麻痺者の作業場として購入した。だが、ここに将来、分譲住宅が建ち並ぶことが考えられる。そのためのローン制度、機能的で個性のあるプレハブ住宅の設計も検討されている。

太陽の家に働くものは、貯蓄と特別なローン制

度によって青い海を見下ろす緑の丘に自分の家を持つことができるようになる。そのとき、太陽の家はほんとうの意味の「自立する工場」である。また、五十一年度中には「北九州・太陽の家」が建設されようとしている。これが全国各地にあるいはアジアの各地に広がるとき、

「Japan Sun Industries」

はほんとうのものになる。そしてそここそ完全な社会復帰者の姿を見ることができるようになるだろう。





太陽の家

10年のあゆみ

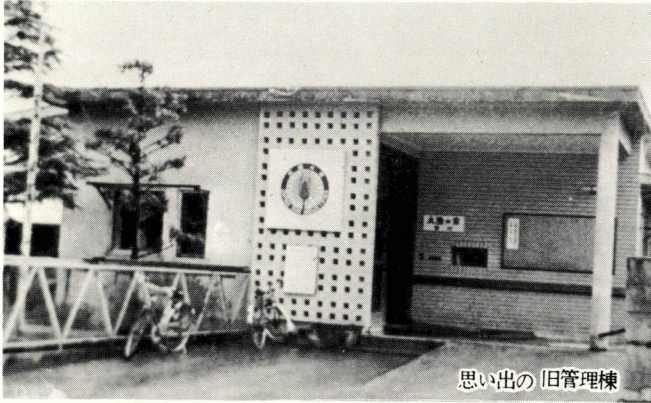
太陽の家 進展する現況



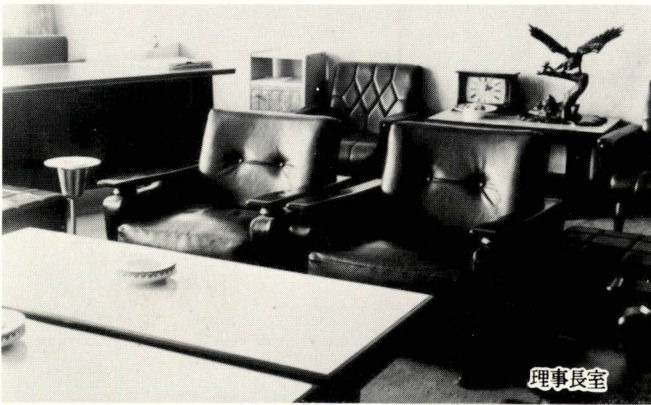
- 管理部門
- 職場—働く喜び
- 機能開発センター
- 研修センター
- 諸設備—ここに太陽が
- 皇室の御関心



# ■ 管 理 部 門



思い出の旧管理棟



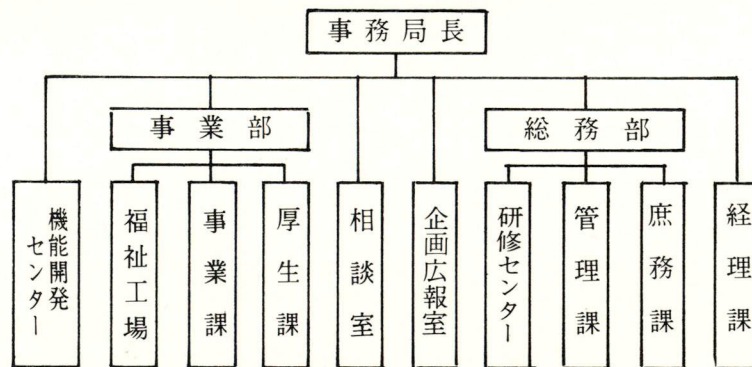
理事長室



本館



事務局



事務局組織図



# 太陽の家に働く者の現況

## 傷 害 別 内 訳

昭和50年8月1日現在

	印刷科 (電子印刷)		木工科 (唐 木)		木工科 (サンアップ)		木工科 (シャープ)		第一プラ (田 島)		園 芸 科		金 工 科 (田島3 F)		金 工 科 (田島4 F)		応用資材科 (オムロン)		特 機 科 (ソニー)		特 産 科		工 芸 科		工 作 科		福祉工場		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
脳性小児マヒ	1		3	1	3	1	19	5	2		4		4	5	12	7	13	5	3	1	8	1			2		3	3	77	29	106
脊 髄 損 傷	1	1	1		2		9	1	2						3	1	3		4		1		4	1	3		21	1	54	5	59
脊髄性小児マヒ		1	2	1	1	1	8						1	3	1			3	1					2		9	8	28	14	42	
進行性筋ジストロフィー症					1	1								1	1											2	1	4	3	7	
骨 関 節 結 核	1		2	1			1		1										1						5	2	11	3	14		
聴 覚 障 害			1				4	2	1				1	1										1			1	7	5	12	
切 断					1		1						1		4	2	1							1			2		11	2	13
先天性股関節脱臼				1		1								1	1												1	1	4	5	
そ の 他	2	1	3	1	3	1	5	1			3		1		3	4	1		3	2	2		2	2		1	3	29	15	44	
合 計	5	3	12	5	11	5	47	9	6		7		6	7	28	17	18	5	14	4	11	1	7	4	7		43	20	222	80	302
	8		17		16		56		6		7		13		45		23		18		12		11		7		63		302		

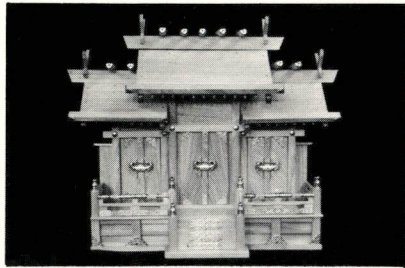
## 等 級 別 内 訳

	印刷科 (電子印刷)		木工科 (唐 木)		木工科 (サンアップ)		木工科 (シャープ)		第一プラ (田 島)		園 芸 科		金 工 科 (田島3 F)		金 工 科 (田島4 F)		応用資材科 (オムロン)		特 機 科 (ソニー)		特 産 科		工 芸 科		工 作 科		福祉工場		合 計		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
1 級	1	1	4		2	1	14	1	3				1	6	3	6	1	8	1	5		2		2		23	4	76	13	89	
2 級	1	1	6	2	3	1	21	6	1		2		4	2	15	9	6	1	3	1	4		2	3	3	14	6	85	32	117	
3 級	1	1		1	2		7	1	1		2		1	2	6	2	4	1	3	2		1		1	4	4	32	15	47		
4 級			1	1	3	2	3		1		3		1	1		2	2						1	1	1	1	1	17	7	24	
5 級	2		1	1	1	1	2	1					1	1	1	1		2		2		2	1		1	4	12	12	24		
6 級																										1		1	1	1	
合 計	5	3	12	5	11	5	47	9	6		7		6	7	28	17	18	5	14	4	11	1	7	4	7		43	20	222	80	302
	8		17		16		56		6		7		13		45		23		18		12		11		7		63		302		

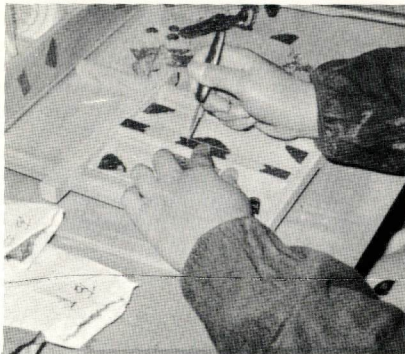
## 年 令 別 内 訳

	印刷科 (電子印刷)		木工科 (唐 木)		木工科 (サンアップ)		木工科 (シャープ)		第一プラ (田 島)		園 芸 科		金 工 科 (田島3 F)		金 工 科 (田島4 F)		応用資材科 (オムロン)		特 機 科 (ソニー)		特 産 科		工 芸 科		工 作 科		福祉工場		合 計									
	18才~20才	21才~25才	26才~30才	31才~35才	36才~40才	41才~45才	46才~50才	51才以上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
18才~20才	1	1					1	1	1		1		1		2	1	1	4		1	1		1		1		1		11	7	18							
21才~25才	1	2	3	1			11		2		1		2	2	7	4	4	2	2	2	4				5		11	2	53	15	68							
26才~30才	1		2		7	3	8	2	2		2		2	2	7	3	2	1	3	1	1		1		5	5	43	17	60									
31才~35才			4	1		2	9	1	1				1	1	4	2	2	2	1	1	3		1	1	1	12	4	39	15	54								
36才~40才	1		2	2	1		9	3					1		5	2	2		2		1		2		7	8	34	15	49									
41才~45才	1		1		2		5	2			1		1	1	3	5		1		1		3	2		4		25	8	33									
46才~50才							3				1			3	1	1		1							2	1	11	2	13									
51才以上				1	1		1				1			1		1		1							1		6	1	7									
合 計	5	3	12	5	11	5	47	9	6		7		6	7	28	17	18	5	14	4	11	1	7	4	7		43	20	222	80	302							
	8		17		16		56		6		7		13		45		23		18		12		11		7		63		302									





神棚



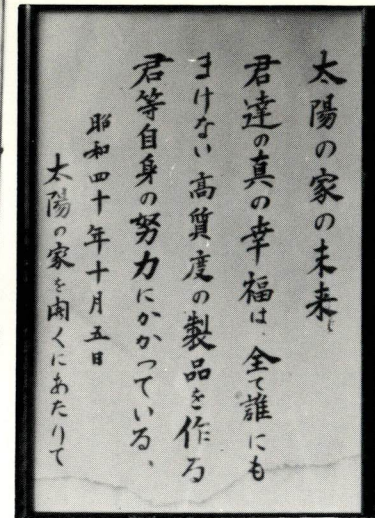
## 第二木工

第2木工科	
協力企業	サンアップ 工芸
製品	神棚
従業員数	16名
日産	40台



飾棚

第1木工科	
協力企業	(有) 伏野建設 (八洲唐木製作所)
製品	唐木家具
従業員数	17名
日産	月産飾棚 40台



## 第一木工

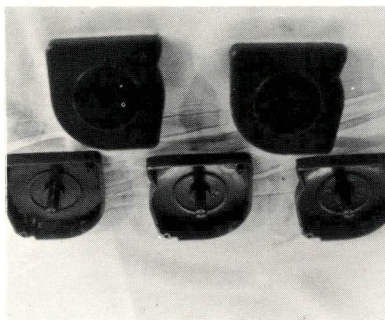


■ 職 場 — 働く喜び

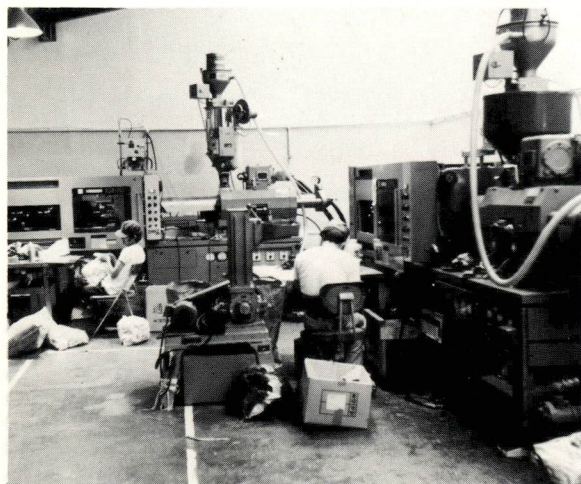


## プラスチック

プラスチック科	
協力企業	(株)田島製作所
製品	巻尺ケース
従業員数	5名
日産	14,000個

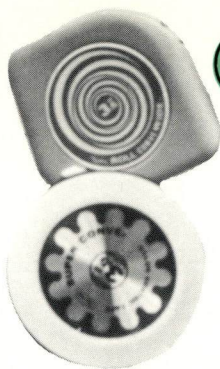


巻尺ケース



プラスチック射出成型機

## 金工



巻尺

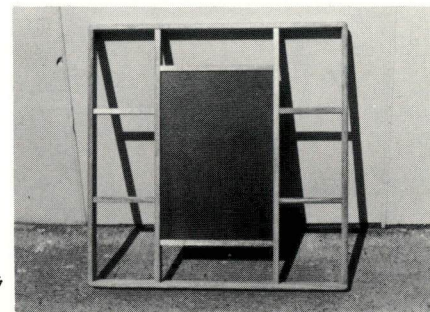
金工科	
協力企業	(株)田島製作所
製品	巻尺
従業員数	46名
日産	9,500個



ヒートセット

## 第三木工

第3木工科	
協力企業	シャープ・太陽二平(株)
製品	シャープ コタツヤグラ
従業員数	57名
日産	1,000台



コタツヤグラ





## 特 機

特 機 科	
協力企業	ソニー (株)
製 品	トランジスタ ラジオ
従業員数	19 名 (10月より35名)
日 産	260台 (10月より500台)

トランジスタラジオ

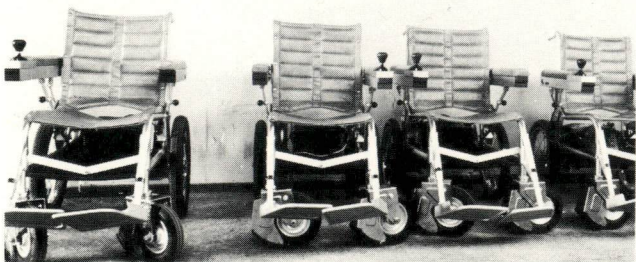


## 印 刷 科

協力企業	(有) 電子印刷センター
製 品	軽オフセット印刷
従業員数	8 名
日 産	



## 印 刷



電動車椅子



## 工 作

工 作 科	
協力企業	ソニー (株) 太陽機器
製 品	電動車椅子
従業員数	7 名
日 産	訓練中

ソニー(株)共同受託事業  
通産省：福祉機械モデル工場



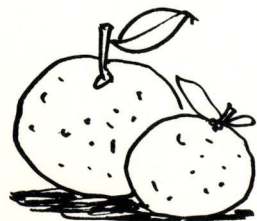
特産科	
協力企業	(株) O. S. K.
製品	椎茸化粧箱
従業員数	12名
日産	3,000箱

## 特産



園芸科	
協力企業	直営
製品	みかん・野菜・植木
従業員数	7名
年産	みかん 60 ton その他

## 園芸



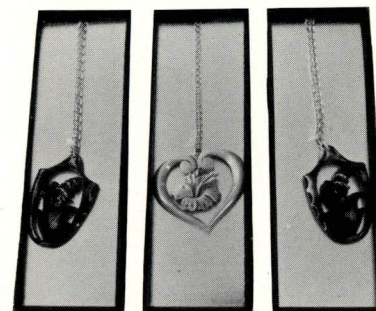
## 応用資材

応用資材科	
協力企業	オムロン太陽電機(株)
製品	電子機器部品加工など
従業員数	22名
日産	



## 工芸

工芸科	
協力企業	(有) 釜我つげ工芸
製品	つげ細工
従業員数	11名
日産	250個



(ペンダント)つげ細工







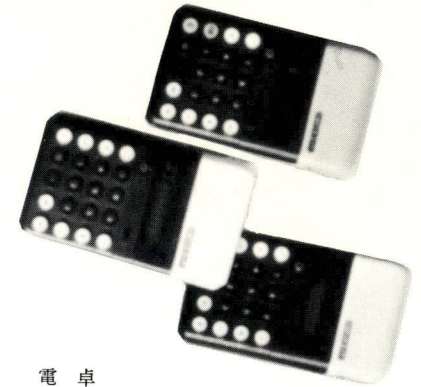
福祉工場全景／1階・工場 2・3階・宿舍



・目的  
太陽の家福祉工場は一般企業に雇用されることの困難な重度身体障害者の社会的経済的自立を具現するものであり、就職の場である。ここで働く身障者は株主の一員であり、最早や税の消費者ではなく納税者である。

## 福祉工場

オムロン太陽電機株式会社

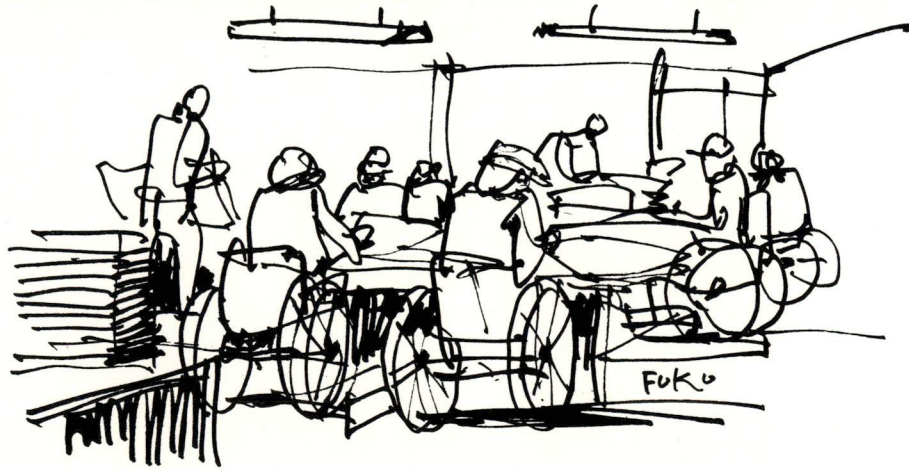
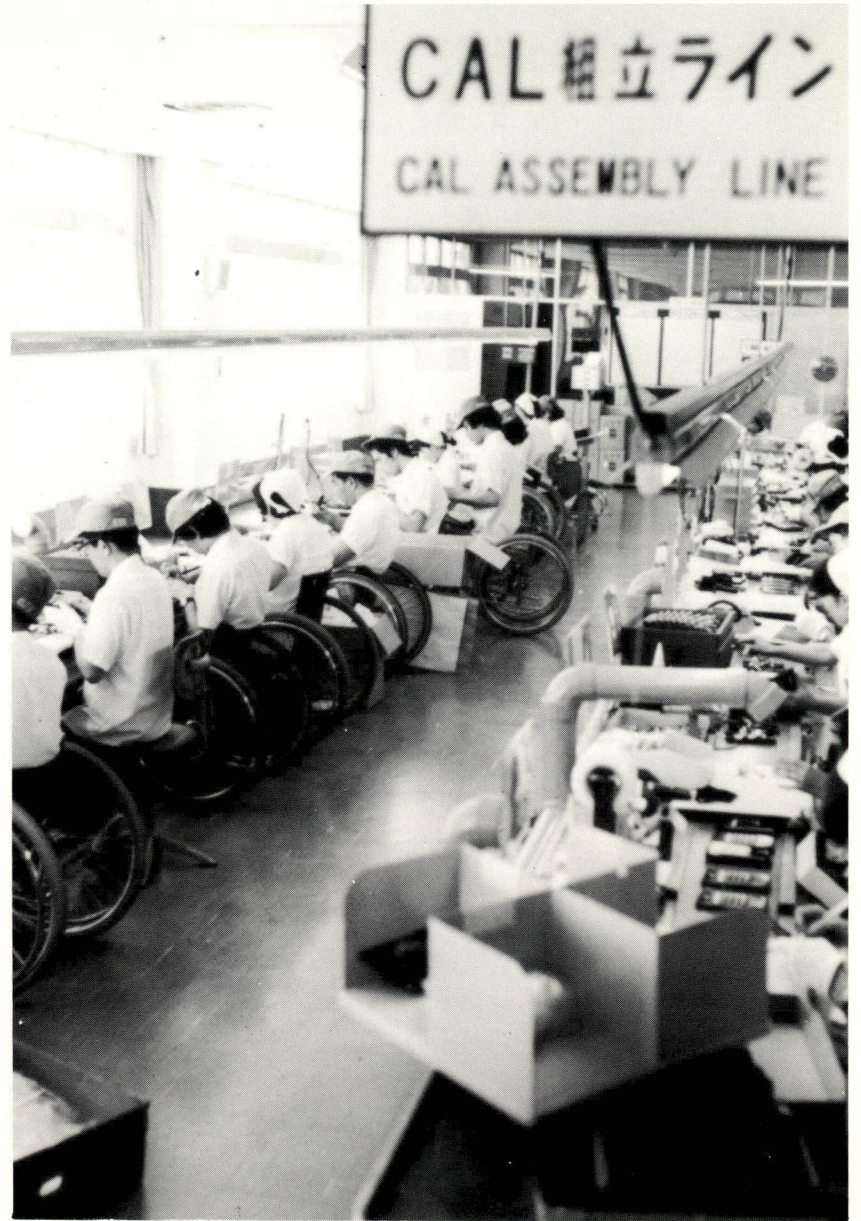


卓卓

### 福祉工場

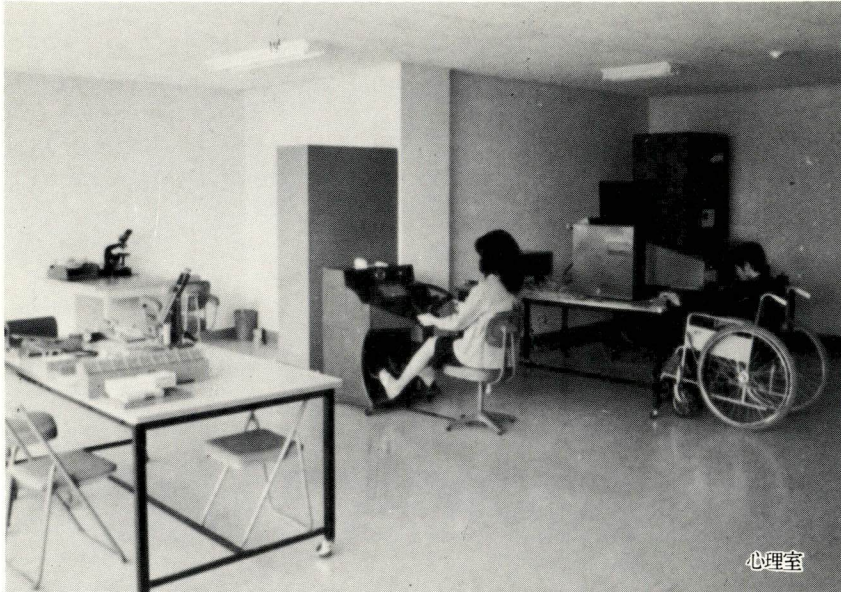
協力企業	立石電機(株) オムロン電機(株) 太 陽
製 品	卓卓
従業員数	62名
日 産	2,800台



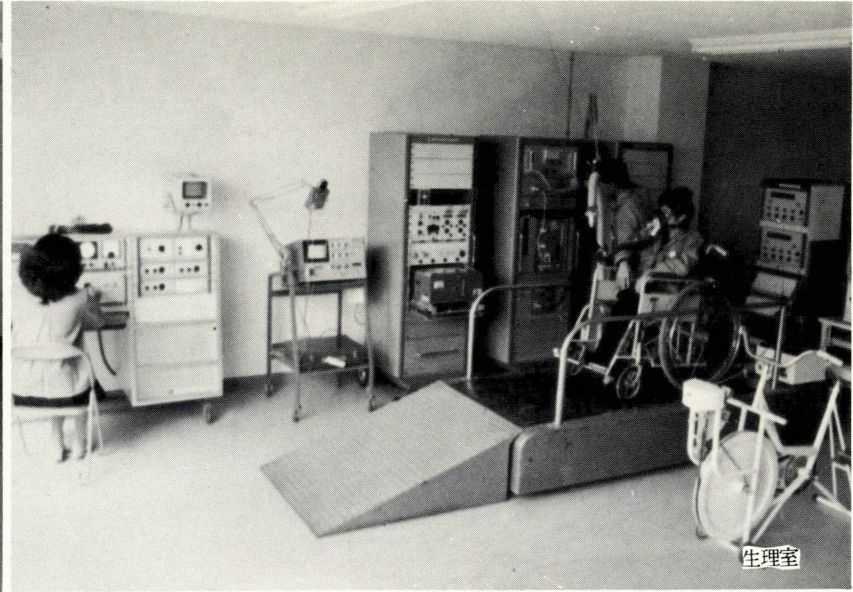




# 機能開発センター

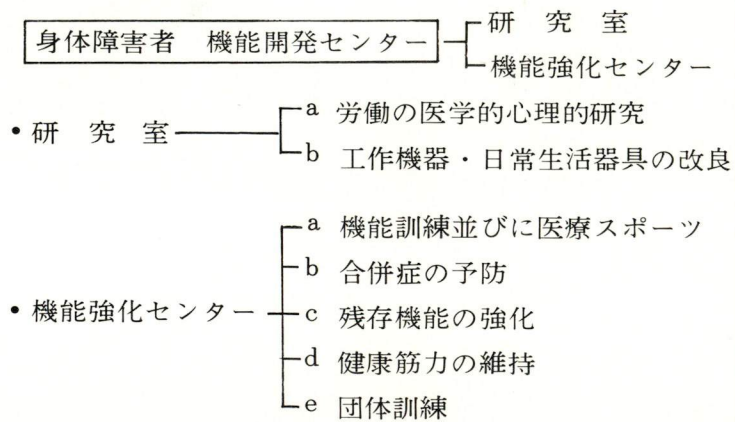


心理室



生理室

## 組織図

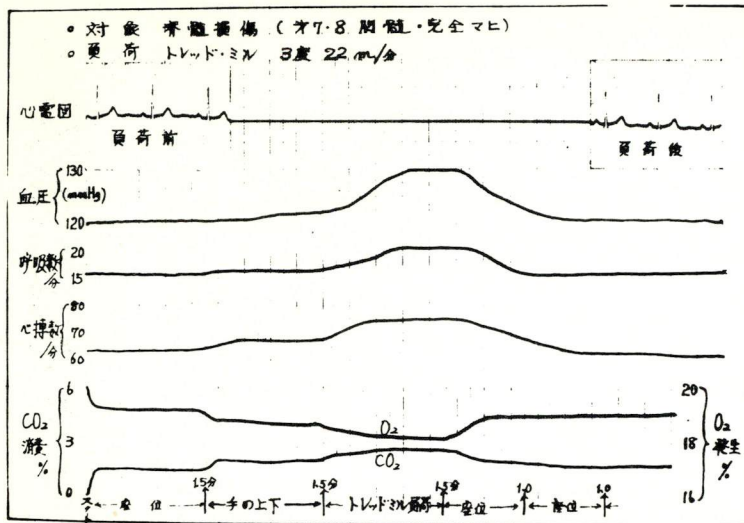


・目的  
 身体障害者の労働意欲と能力の向上に寄与するため、関係分野の分析、研究を行ない、障害に応じた人的資源の開発を行なう。

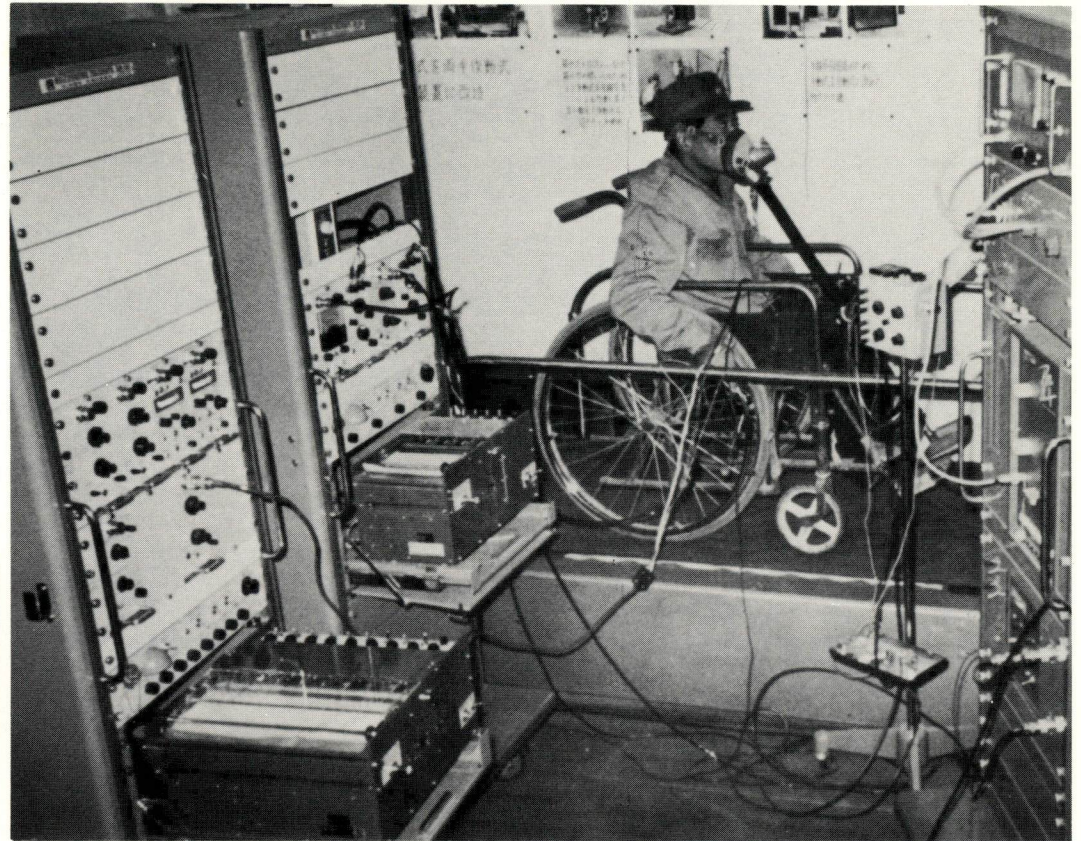
労働医学的研究により、重度身障者に就労させる場合医学と工学の結びつきが不可欠であることを確認し、重度障害者特に重度脳性麻痺者の職域拡充に積極的に取りくんできた。



## 医学的・人間工学的 測定検査



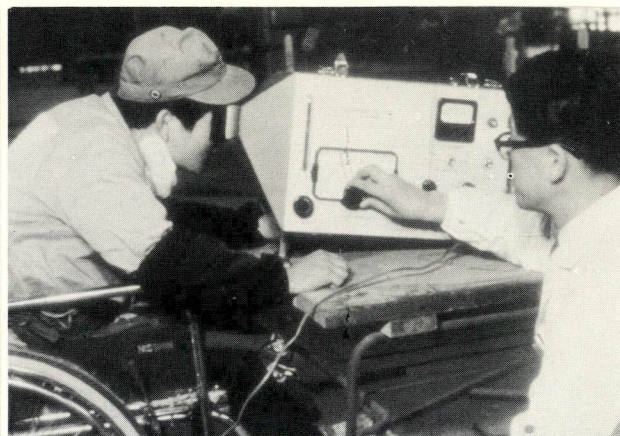
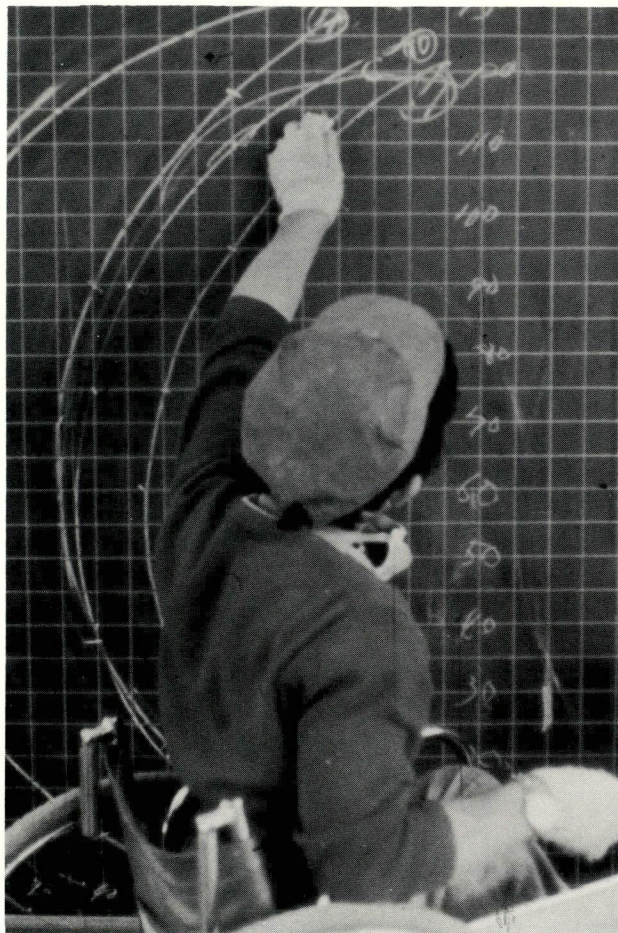
検査データー



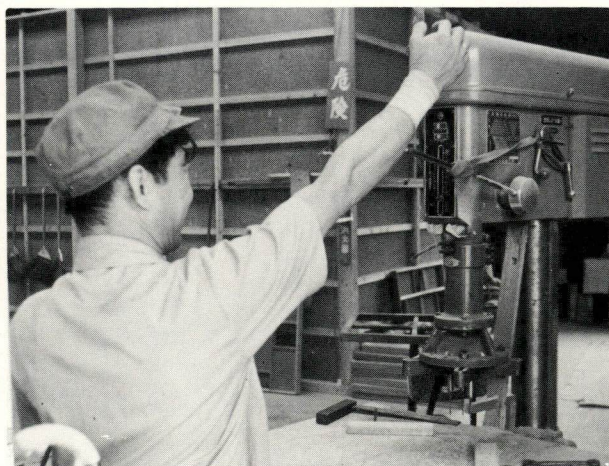
多用途監視記録装置により、トレッドミルの負荷を変えつつ、心電図血圧O<sub>2</sub>消費量・その他を測定。

作業中の脳波、心電図、筋電図をセンター内のテレメーターに搬送し、適正作業量、作業種目、作業姿勢等をチェック。

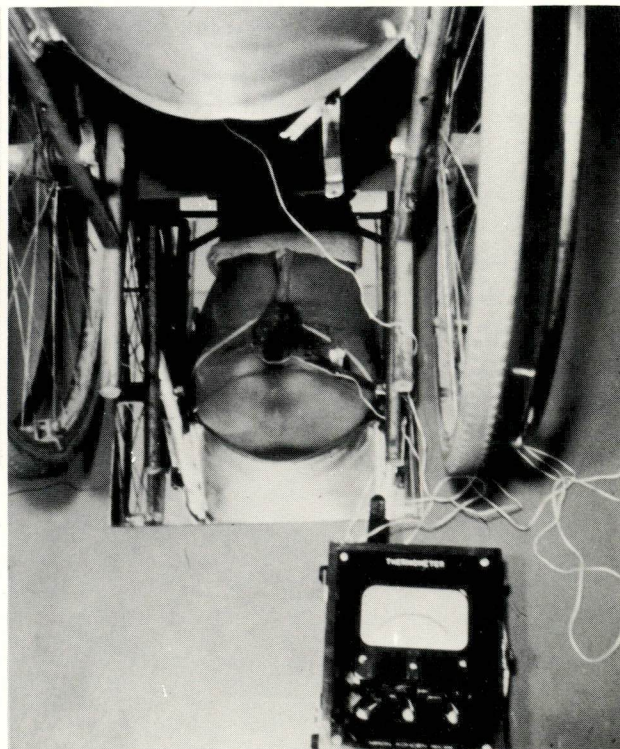




フリッカーによる疲労検査



到達範囲（リーチ）の測定により  
機器類の基本的改良を行う。



褥瘡予防対策のための皮膚温測定





## テトラエース 四肢麻痺者用モデル住宅

手足の動かせない四肢麻痺者が自活できるモデル住宅で、電動車椅子に設置されている超音波発振器で、ドア・カーテン・テレビの操作を行う。

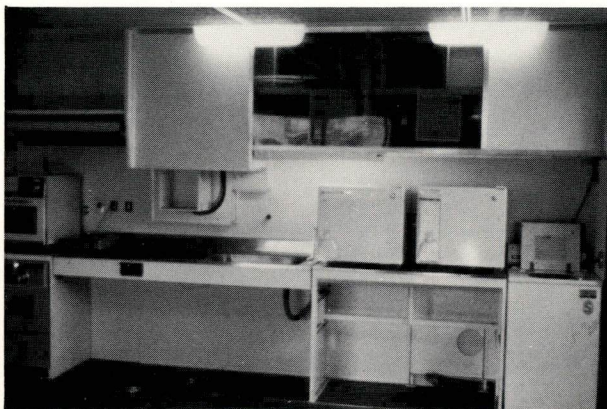
### キッチンユニット

- ① 食器類はメリーゴーランド式に箱を回転させる。
- ② 各種電化製品は自助具等の使用により改善されている。



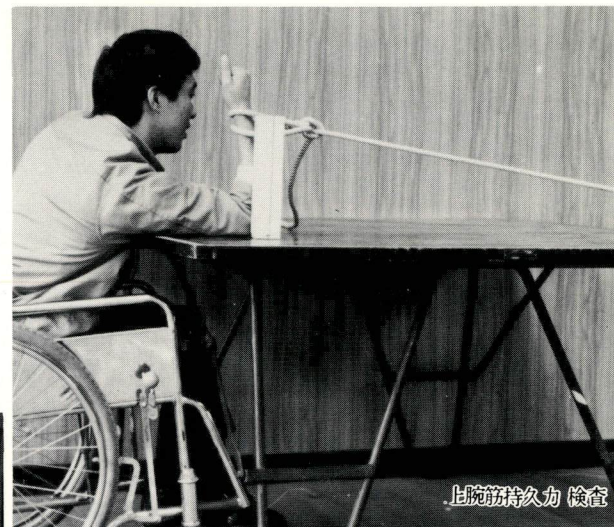
### スリーピングユニット

- ① ベッドは上下式で使用しない時は天井に上げる。
- ② 従って物の収納がスムーズに行える。



### サニタリーユニット

- ① 温水シャワーにて顔を洗い温風機でかわかす。
- ② 便器は温水で洗い、温風でかわかすウオッシュエアシート使用。
- ③ 車椅子に設置されているリフトで浴槽につかれる。



上腕筋持久力検査

筋力の測定は障害者が職に就き自立するための基礎データである。

### 筋力計測値

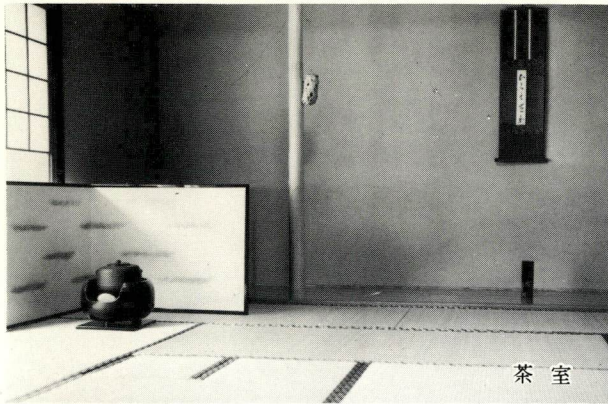
計測項目 病因	上腕屈筋力 (kg)		上腕筋持久力(秒)		握力 (kg)		肩腕力 (kg)
	右	左	右	左	右	左	
脊髄損傷	30.6	28.5	238	165	38.9	39.7	73.4
脳性小児麻痺	4.4	2.8	97	125	23.2	11.8	36.6
脊髄性小児麻痺	19.7	18.0	125	131	25.1	29.5	44.4
カリエス	11.2	9.6	155	63	34.7	33.7	62.0
進行性筋ジストロフィー	0.4	0.3	0	0	15.4	14.1	10.7
その他	11.9	11.4	69	68	25.0	22.5	24.2



- |      |                              |      |                                  |
|------|------------------------------|------|----------------------------------|
| 43・2 | 労働研究室開設                      | 5    | 論文 疲労度と生産性                       |
| 5    | 労働医学的研究（第1報）                 | 7    | 論文 作業姿勢と作業能率                     |
| 6    | ロスイッチ開発 木工科シャープ角ノミ盤にて頸髄損傷者就労 | 11   | 電動車椅子開発研究事業（中央競馬会）               |
| 44・4 | 労働医学的研究機器整備事業（日本船舶振興会）       | 12   | 労働省委託研究事業                        |
| 7    | 論文 外気温と皮膚温との関係               | 49・4 | 大分県補助事業                          |
| 8    | 論文 プラスチック科3交替制に伴う疲労調査        | 6    | 第3回九州リハビリテーション医学懇話会 事務局太陽の家に設置   |
| 10   | 労働省委託研究事業                    | 7    | 脳性麻痺者の就労実態 一薬物療法を中心に一            |
| 45・5 | 職域体操制定                       | 10   | 第16回日本発明くふうコンクールへ4点出品（1点奨励賞3点入選） |
| 6    | 論文 作業姿勢と疲労                   | 50・4 | 通産省委託研究事業（機械工場モデル開発研究）           |
| 10   | 労働医学的研究助成事業（三菱財団）            | 4    | 沖縄海洋博アクアポリスにて使用のエスカレーター用車椅子開発    |
| 11   | 各種自助具 150点製作 自助具展示室整備        |      |                                  |
| 12   | モデルハウス建築 テトラエースと命名           |      |                                  |
| 46・4 | 身障者機能開発センター建築（日本自転車振興会）      |      |                                  |
| 7    | 頸損（C6）用リフト付電動車椅子1号機完成        |      |                                  |
| 7    | 労働医学的機器整備事業（三菱財団）            |      |                                  |
| 12   | 脳性麻痺の自助具の改良・開発研究（日本肢体不自由児協会） |      |                                  |
| 47・2 | 論文 単調労働と作業ミス                 |      |                                  |
| 7    | 脊損ハンドブック作成                   |      |                                  |
| 48・4 | 大分県補助事業                      |      |                                  |



# ■ 研修センター



茶室



和室

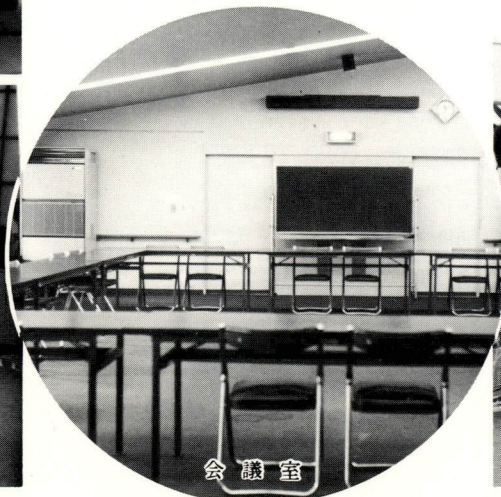


洋室



研修センター全景

目的 国外・国内の身体障害者及び身体障害者リハビリテーション関係専門職、その他関係者が、太陽の家の事業現場・研究機関を通じ身障者の訓練方法・補助器具・建築構造・機械設備・機能判定等の技術修得の為、宿泊して研修を行うことを目的として設立された。



会議室



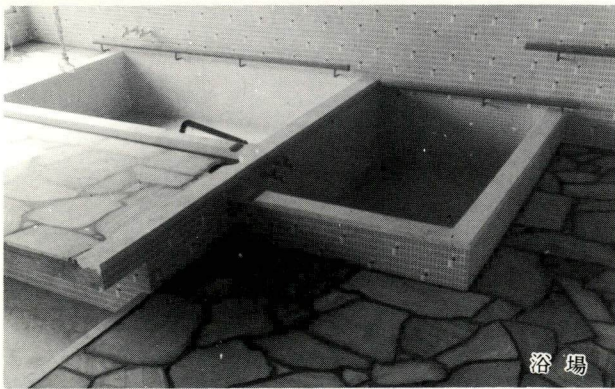
部外者も利用できます。 ラウンジ



■ 諸 設 備 — ここにも太陽が



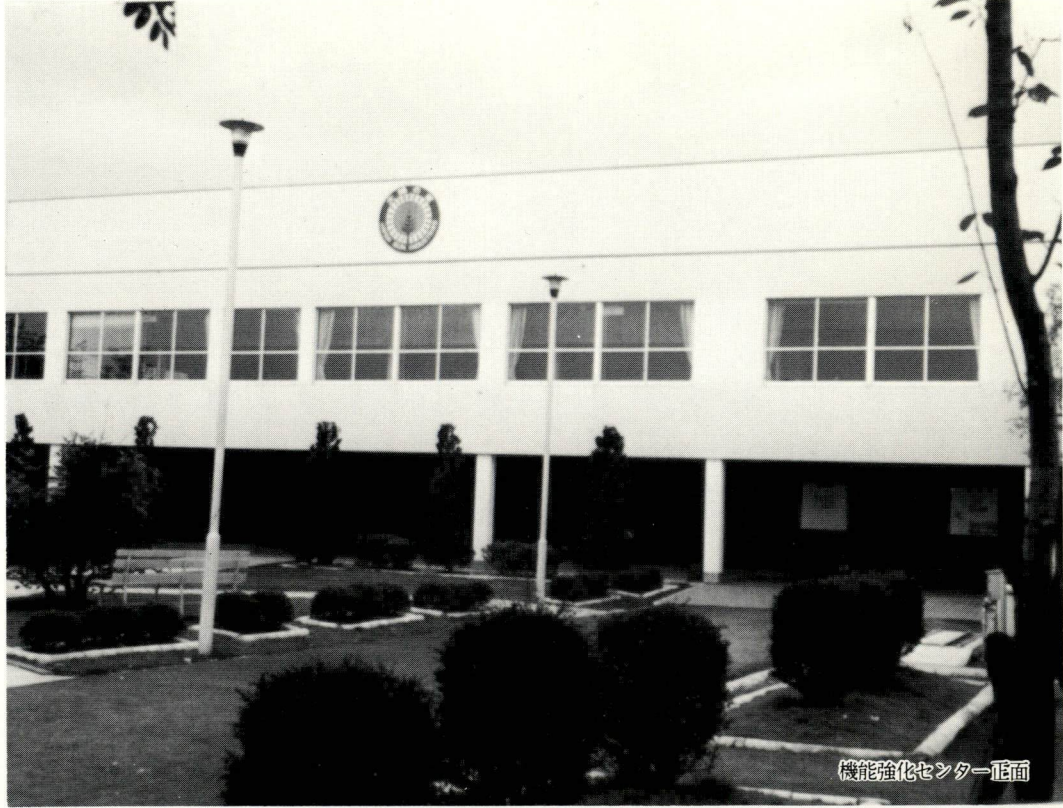
スロープ



浴場



トイレット



機能強化センター正面



温水プール



バスケット競技場





スポーツの成果



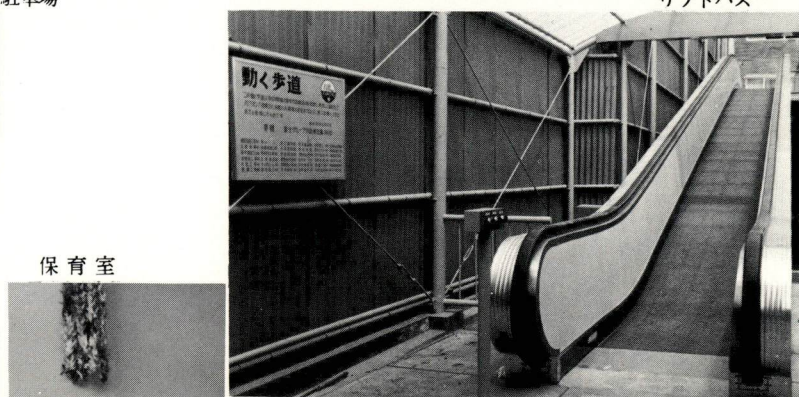
身障者用マイカー駐車場



リフトバス



結婚から育児へ



動く歩道



保育室



# ■皇室の御関心



皇太子殿下御夫妻行啓 (昭和41. 11. 6)



秩父宮妃殿下御視察 (昭和47. 10. 30)



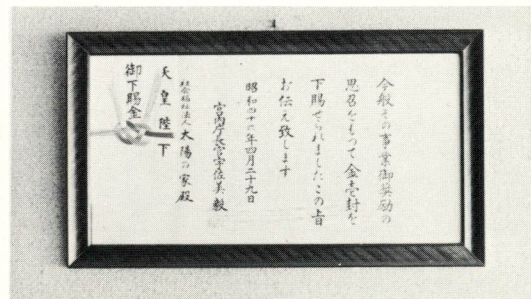
皇太子殿下御夫妻再度行啓 (昭和50. 6. 2)



天皇皇后両陛下下行幸啓 (昭和41. 10. 22)



常陸宮殿下御夫妻御視察 (昭和43. 11. 12)



御下賜金



年 月 日	内 容
～ 8・12	日本代表選手として田中慶博、梅田幾世両選手参加
10・7	研修センター完工（日船振補助金主体）
11・12	鹿児島身障者国体にバスケットチーム及び原田ノリ子選手出場 〔金メタル・銀メタル・銅メタル〕
11・21	理事長パラリンピック出場者等と共に皇太子謁見
48・2・6	第二次募金東京発起人会（橋本、井深、水上、秋山氏出席）
3・5	全太陽自治組織「むぎの会」発足（従来の「木の芽会」は発展的に解消）
6月上旬	中村理事長オーストラリア・センターインダストリーズ視察のため海外出張
7・28	別府市福祉モデル都市に指定（厚生省）
8・29	杵築市大字塩屋崎のみかん園18200㎡購入（園芸科用地）第一次
9・8	オーストラリア、センター・インダストリーズ理事長及び総支配人 来訪
10・1	園芸科発足創業（みかん園及び構内）
10・11	プラスチック科、インジェクション二機増設（日自振補助金主体）
11・13	米国ドーマン氏及井深会長来訪
11・30	中村理事長 米国アラバマ州陸軍中佐に任命
49・2・4	中国スポーツ視察団一行来所視察
3・20	杵築市黒田のみかん園14,600㎡購入 第二次
4・25	理事長 FESPIC（極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会）準備委 員会に委員長として出席（シンガポール）
5・29	「太陽の家」東京出張所及びサン・インフォメーション・センタ ー開設披露（東京）
6・1	特機科ソニー（ラジオ組立）創業
7・15	畑田常務理事 英国ストック、マンデビルゲームに出張
～ 8・5	
9・20	木工科杉尾良一アビリンピックに出場 旋盤部門3位入賞 努力賞 を受く。11・10大分県より技能優秀賞
9・22	中村理事長 リスボンで開催の身障者技術援助（ICTA）委員会に出 席
10・21	特産科（椎茸包装）創業（株OSK）
10・28	畑田常務理事ストック、マンデビル、ゲーム関係者として皇太子に 謁見
11・3	茨城身障者国体に渡辺祐一、杉尾良一、鬼塚理子出場〔金メタル2、 銀メタル1〕

年 月 日	内 容
12・2	工芸科（つげ細工）創業
12・11	韓国聖世再活院より研修生5名受入（1ヶ年）
50・1・22	中国婦人代表団6名見学に来所
2・1	参議院議長河野謙三氏視察
2・4	全国発明工夫コンクールで車椅子バック防止装置奨励賞に入賞 他3点入選
2・12	アメリカ グリーンレイ協会より授産施設調査のため来所
2・12	宮城まり子園長来所見学
3・29	水上勉理事文化講演会実施（市民会館）
4・11	理事長 吉川英治文化賞受賞
4・27	企画広報室長 吉永栄治（車椅子使用）別府市議会議員に当せん
5・26	日本自動車工業会よりリフトバスの寄贈を受く
6・1	フェスピック・ゲーム（極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会） 開会式（皇太子御夫妻御臨席）大会第1日
6・2	大会第二日 皇太子御夫妻「太陽の家」行啓約3時間に亘り御視察
6・3	閉会式（於太陽の家）
6・28	機能強化センター竣工式実施（体育館プール）
7・4	太陽二平株式会社設立登記



# 太陽の家 あゆみ抜粋

年月日	内容
40・5・10	別府善意工場設立計画
9・11	別府リハビリテーション設立発起人会（整肢園より独立）
9・28	別府リハビリテーション設立準備委員会（太陽の家名称決定・開所式・法人認可申請決定）
9・30	小野田セメントより土地建物売買契約成立
10・5	太陽の家開所式
41・2・14	社会福祉法人認可、3月8日登記、4月1日身障者授産施設に指定(厚生省)
5・1	米国アビリティーズ社々長ヘンリー・ビスカーディ氏来訪
7・25	指定寄附（免税）認可（第一回）5,000万二年延長(44,7終了)(大蔵省)
7・30	隣接国有地譲渡契約成立（第一回 7475㎡=2,260坪 1,650万円）
9・3	第一期工事完工（第一工場・宿舍・食堂・浴場）国県補助金主体
10・18	第二期工事完工（プール・第二・三工場） お年玉はがき、日自振補助金主体
10・22	天皇皇后両陛下下行幸啓
11・6	皇太子殿下御夫妻行啓
42・1・24	入所定員124名に増加
5・19	木工科早川電機（コタツヤグラ）、クリーニング科（錦久寝具）創業〔第一・二工場〕クリーニング46・11・30閉鎖
11・1	金工科関西エバーブラック創業（レンズキャップ・圧飯）〔第三工場〕47・10・31閉鎖
43・2・10	第三・四期工事（三階建宿舍・体育館）完工 日自振補助金、文芸春秋故佐木社長未亡人寄附主体
4・25 ~29	韓国大田市聖世再活院、身障児童一行14名（院長南認均氏）来訪
6・1	金工科京都度器 創業（スチールメジャー組立作業） 45・9・30閉鎖
6・18	園田厚生大臣視察
9・21	労働大臣表彰状（雇用促進協力）
10・30	中村理事長日本選手団長としてパラリンピック・イスラエル大会に
~11・14	参加
11・12	常陸宮殿下御夫妻御視察
44・2・20	プラスチック科創業（川口鉄工(株)よりインジェクション一機寄贈）
4・19	隣接国有地譲渡契約成立（第二回6,633㎡=2,000坪2,786万円）
9・15	ストーク・マンデビル大会（英国）に日本選手代表として江藤秀信 森崎一晴両名を派遣〔金メダル2 銀製花瓶2〕
10・1	入所定員 154名に増加

年月日	内容
44・11・8	長崎身障者国体に吉松時義、木部役子両名出場〔金メダル4〕
45・4・30	中村理事長スエーデン、ストックホルム、スベトラエンスキード
~5・11	視察
6・2	第二プラスチック科（京屋工芸マネキン）創業
7・2	野原労働大臣、岡部官房長視察
10・1	金工科田島製作所（スチール・メジャー）創業 9・30京都度器閉鎖に引きつづき
10・23	岩手身障者国体に宮本猪一郎出場〔金メダル2〕
12・4	四肢マヒ者用モデルハウス（テトラエース）完工 あゆみの箱寄附、東大池部教授、東工大森教授、ナショナル住建の協力による。
46・3・8	指定寄附（免税）認可 第二回1億円 一年延長（48・3終了）（大蔵省）
3・	富士グループ大阪万博使用の動く歩道寄贈、本館6階建に取付
4・18	本館鉄筋6階建（一部内部未完成）落成 （日自振補助金あゆみの箱寄附金主体） 温泉浴場及び太陽湯完成 （別府市補助金主体）
5・3	韓国大田市聖世再活院（院長南認均氏）親善答礼訪問
~5・7	（理事長夫妻、事務局長夫妻、木元、身障者5名）
5・4	天皇陛下より事業奨励の思召をもって御下賜金一封を賜わる。
6・1	重度身体障害者授産施設（定員83名）指定（新設六階建本館部分）
6・26	中村理事長米国グッドウイルインダストリーズのインターナショナル ル代表者会議に出席
~7・11	全組織のアジアリハビリセンターに指定を受く
8・20	木工科サンアップ荒尾作業所（神棚製作）創業
10・16	身障者機能開発センター（労働研究所）増築完工（日自振補助金主体）
10・27	自民党幹事長橋本登美三郎氏視察
11・6	和歌山身障者国体に江藤秀信出場〔金メダル・銀メダル〕
~7	
12・1	木工科唐木作業所〔紫タン高級家具製作〕創業
12・13	オムロン太陽電機(株)創立発会式 来春福祉工場設立に備え準備訓練開始 47・2・5登記
47・4・1	福祉工場創業 4・8落成並創業披露式典（国及県補助金主体）
7・25	理事長日本選手団長としてハイデルベルヒ・パラリンピックに出場



太陽の家 10 周年記念誌

•企画発行者／社会福祉法人・太陽の家・発行日／昭和 50 年 9 月 25 日・印刷・レイアウト／ (有) 電子印刷センター太陽の家印刷部 別府市大字内竈 太陽の家内







